

特20
933

子平姓名圖云

卷四

都名所圖會卷之四目錄

右白虎

月輪寺

時雨桜

高野瀧

日暮瀧

朝日峯

白雲寺

檜原

火伏権現

清瀧川

嵯峨化野

念佛寺

住生院

三宝寺

小倉山

二尊院

淨金剛院

時雨亭

厭離菴

定家古跡

為家古墳

愛宕山四龍圖

長明神

西行古跡

車僧塚

清涼寺

嵯峨帝塔

融大古塔

大覺寺

大澤池

名古屋瀧

相澤池

廣澤池

僧正遍昭古跡

遍昭寺山

千代古道

麻の草古島

野々宮

常寂寺

芥川

歌詠橋

薄馬場

龜山

天龍寺

嵐山

都名所圖會卷之四目錄

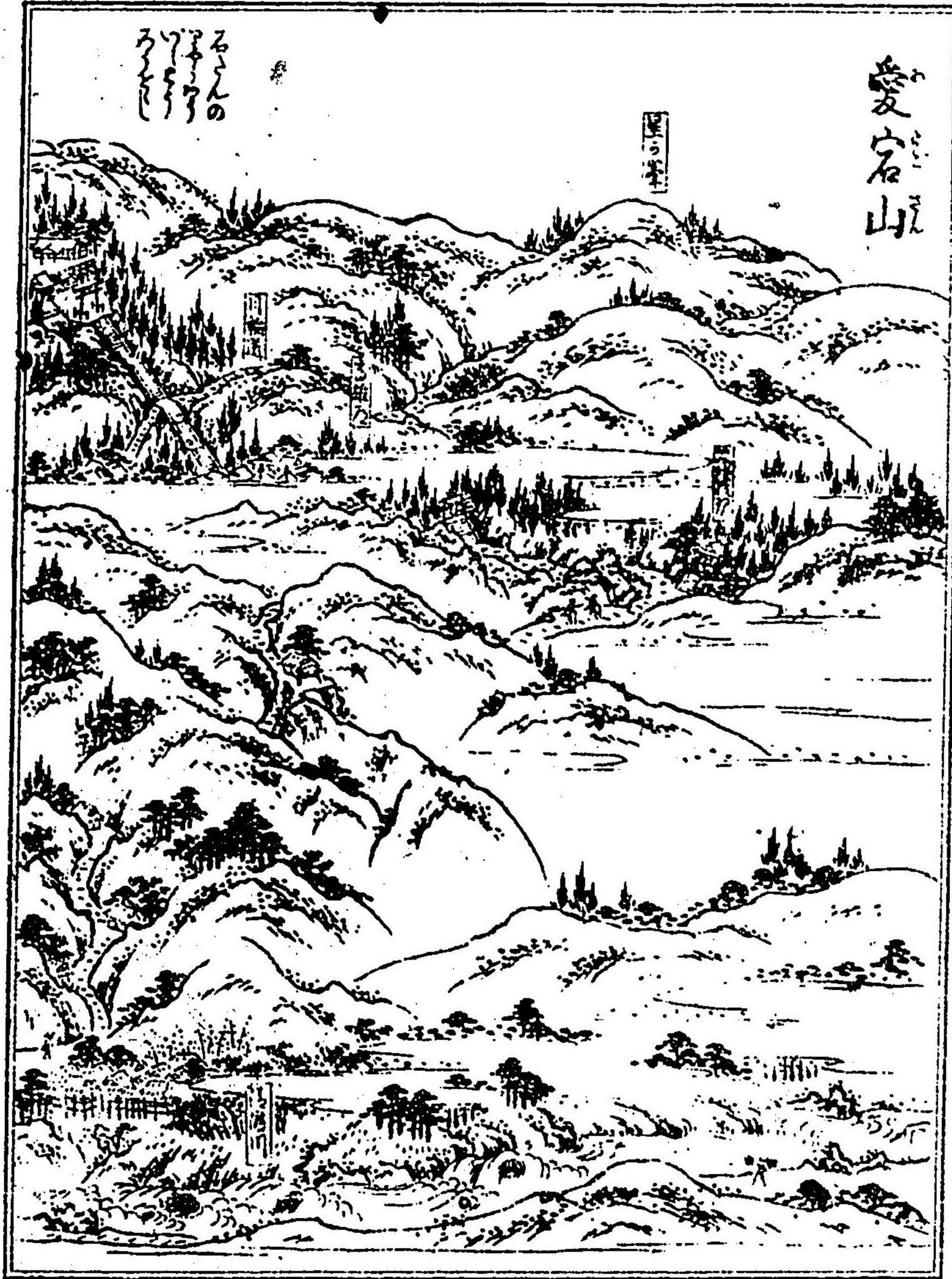
右白虎

月輪寺	朝日峯	清瀧川	三寶寺	時雨亭	愛宕山血龍圖	清涼寺	大澤池	僧正遍昭古跡	野々宮	薄馬場
時雨桜	白雲寺	嵯峨化野	小倉山	厭離菴	長明神	暖藏帝塔	名古曾瀧	遍昭寺	常寂寺	龜山
高野瀧	檜原	念佛寺	二尊院	定家古跡	西行古跡	融大塔	相澤池	千代古道	芥川	天龍寺
日暮瀧	火伏権現	住生院	津金剛院	為家墳	車僧塚	大覺寺	廣澤池	麻の聲	歌詠橋	嵐山

大悲園	大井川	法月橋	千鳥灘
西行樓	小督塚	辰川寺	有極川
安堵橋	梅津川	常盤社	車折社
本流社	地藏堂	地藏堂	志泰庵降寺
梅の宮	西院春日社	華嚴寺	海生寺
草うりの家	華嚴寺	唐櫃越	松尾社
葉室西芳寺	桂川	桂の里	津住寺
天教森	時鳥園	峠の里	日野嶽
久遠寺	龍清水	長岡都	長岡都
大原野春日	箭の籠	三鈷寺	三鈷寺
西行樓	花の寺	西岩倉	西岩倉
栢社	せがいの水	西岩倉	西岩倉

善峯寺	小坂山十福寺	在原業平塔	塩竈古跡
業平母公塔	朱在権現堂	源為義塚	水薬師
辨天社	西寺古跡	山伏塚	松尾系礼忌
唐橋	吉祥院天満宮	鳥羽里	實相寺
貞徳翁墳	地藏堂	こい塚	下名根衣塚寺
法傳寺	横大路牛車園	久世里	藏王寺
琴彈橋	鷲尾寺	福田寺	板井清水
羽束師森	向日明神	真經寺	寺戸願徳寺
し訓寺	粟生光明寺	真海印寺	寂照院
揚谷観音堂	長岡天満宮	小倉明神	園明寺
帰海印寺	山崎	離宮八幡宮	宝寺
櫻青寺	八大天王	妙喜菴	天満宮社
宗鑑古跡	園戸明神	谷観音堂	谷観音堂





愛宕のやゝ海王の乾みく朝日嶽白雪寺と號一れ名居り
坂の又十町ありてくめふ試の峠あり清濁川後後橋橋火煙控現を
十七町目あり橋の下の霧ありく南星峯とい乾けくこの嶺を
い鐵の華表に類の姿を朝日の雲と白を寺と書し法親王の御
際たりく霧のい香解山の清濁川に水の白波 西行法師
山根志清濁川の早々にけけりける岩れ山吹 権中納言圓光
阿尾は白波ありてく山吹の系れりりり 殿仲

本殿の阿尾山権現ありて空所の候并冊尊史在靈尊之本たる
將軍地蔵をまじりて帝都れ守護ありて大突と氷く返のつて
久代も鷹の筆たかりりといと光仁天皇け清平天應元年に慶後
法師け山といくくとあ徳のい法親王の御
元年後角春僧は西寺の悪思の返法せんといふの由に説き
とく愛宕のいづに山吹の寺を築きて僧を居せしむるに
白雲寺といふ名をなれ中にも僧尼もあはるるに
阿尾は白波ありてく山吹の系れりりり 殿仲

て和氣清磨例の多る四月中に亥日しと神樂二基あり嵯峨清涼寺に
鎮守松清後所とて野々宮ふ振く社伝伝傳六月廿四日
平日参りて青い群集一月毎に御目も老人の血行樂のりて枝
らん婦人童子けつらも万仞の嶺にたといは後任清涼寺に休
らんの白を目のあそ枝のありて土蓋おけお興とて足けりて松とて松枝
山城國二ふ烈なる高山ありて炎暑れけりも峯寒く道は峻難たりとい
くも常に皆人おけり賑きも只権現に威徳そり

鎌倉山月輪寺の愛宕の山吹のあり 鐵の香井とてた下りて 當寺に本尊六十一
面觀世音安ん安ん祖師堂の空也上人觀者聖人月輪殿下下係あり
岡基の慶後法師中興の九條白太政大臣兼實公之 取掛禪定と稱たり
龍女水 空也上人の御小出居りてゆふ時當山寒涼ありて龍女と化して
く清涼なるに龍女の御殿ありていづれも御殿の御殿ありて
く國を遠の時表實公名流とてけりていづれも御殿の御殿ありて
く國を遠の時表實公名流とてけりていづれも御殿の御殿ありて

三寶院



往生院



念佛堂

山



二尊院

古今
夕月秋
小倉の
啼麻の
舞の
秋の
貴之

山

山

山

山

山

山

小倉山二尊院の愛宕を北南にあり宗音の天台真言四宗に兼修あり

風推 小倉山麓の寺に相小ありぬるありはぐりあり後成

法隆寺 小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり順徳院

新成 小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり後成

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

當院に奉尊の釋迦阿陀の二尊を立像ありて發遣本達に相とあり

にせり念佛堂あり法然上人の教を安堂中門の額に後柏原院に奉修ありて

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

書して西足門ふくむるありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

小倉山麓の里の寺に相小ありぬるありはぐりあり西行

連綿として世襲の聖徳天皇の御孫に皇太子兼明親

王は不承り山莊と宮雄藏殿と林は皇親國戚の中興は終て八咫

居一のひえええ幸十月七日一宗核範の式七條の記法と制せり自

と修て辨教とせり當院の二世信空上人とて西山より入等百八十九人

起請に回せりかのく自修の文とせり兼合二尊真宗九十八人目小又社家社令

相と安堂持然上人は舍利より式とせり日佛子年尼のま二教ありて修より一

足引れ神影其傳小日月輪禪定殿下法然上人小神歸依の志修く尊敬乃

のまり上人の真形と寫さんと修り上人のく辭して退せり其後上人

百指すれ浴室小入は浴ありて衣と著し念仏の体息の回画子持眼

石磨ありありて庫中より寶小籠も具形相なりとせりよきより

半一のりて一方の足先とせり只ありありありのほかに畫せりよきより

ありありの府殿下け毒修ありて用眼修ありとせり上人修あり足乃

とせり平懷の形ありと持念せりとせりとせりとせり

寺は姿も是偏上人は奇特の僧師に名譽ありとて人々奇異
の心ありふり是より足引の津新とを稱する

法然上人は第二世正信房湛空を徳大と名實法に縁なきは
真法流の志源なりとて浄土門に入りて當院を再興し土師院後院

二代の國師と名實喜上皇御時依れ勅命ふけり世濟遺骨を當山に
塔ふ納め奉る當山の三世正上人も後源州院龜山院後宇多院伏見

院に國師より當院の縁起の伏見官員教親王西之條公條卿の兩帝
外題の後奈良院の宸翰ありて画の土佐光信より大聖文殊の三衣傳

教大師の五條加賀公長慈覺大師の之衣皇慶阿闍梨の袈裟あり
は兼徳の撰法神現れく天竺に世熱ゆふ其外五鈷等供ん院より佛附

切て撰ひて之衣大刻ふ袈裟あり
〜て當院の什寶あり
黄門定家卿の山社といふ旧地の佛殿のうらむ山脈ありかの卿より
は當院誌堂魏より後世小倉といふありて号るおん

厭離菴
定家卿古跡





あつたまの
竹葉の
ついでに
ついでに

柑盛

あつたまの

あつたまの

あつたまの

あつたまの

あつたまの

檀林寺とらふのむら 檀林皇后は草創されて後深井法堂と樹る 樹の長野
 亡廢しては地は浄金剛院と建る 樹の長野
 浄金剛院ののり又其後調りといふこと
 長明社にや一為の二尊院大門のまゝなる祖のあり所の檀林を居るは樹を
 とらふは又日堂宮の南二町をわたりありの皇后の御務とありといふ
 裏柳の社の大門のまゝ中院町ありし衣散りし所ありしを檀林
 皇后嘉智子の後深井法堂とて龍愛ありし西施毛壇ふもあつたまの
 覺しより後憲慕愛執ののり後深井法堂とて遺命ありし後
 嶋野くふふ於る具はありし所ありしを檀林とてありといふ
 西行法師の居られたるのや一ろれむにあり
 我々の秋の積なりしを今も里小字を居るしより 西行法師
 車僧の塚の二尊院のまゝありし所の小一堆の所ありしを檀林とてありといふ



五臺山清凉寺の山舎に東あり

在昔大聖釋迦牟尼佛の遺徳を以て長久の分天を聖賢首領摩訶迦羅の
闕六十大菩薩ののち像法末の厨子に安んずる東西に増上する文殊菩薩を以て
作此菩薩の二國と雙の靈佛して釋尊在世にありしより生身の像
あり如来の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる
後、大聖釋迦牟尼佛の遺徳を以て長久の分天を聖賢首領摩訶迦羅の
闕六十大菩薩ののち像法末の厨子に安んずる東西に増上する文殊菩薩を以て
作此菩薩の二國と雙の靈佛して釋尊在世にありしより生身の像
あり如来の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる
後、大聖釋迦牟尼佛の遺徳を以て長久の分天を聖賢首領摩訶迦羅の
闕六十大菩薩ののち像法末の厨子に安んずる東西に増上する文殊菩薩を以て
作此菩薩の二國と雙の靈佛して釋尊在世にありしより生身の像
あり如来の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる

宋の代至るに本朝一条院の清平永延元年南都東大寺に元統法橋齋
終後唐の靈菩薩を以て此尊像を感得しなり歸航しては辛八月十八日
天聰小建加蓋と建立し清涼寺と號す以上御徳の
阿彌陀堂 樓殿手く號す後成帝の皇子融大は御徳の
佛の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる
後、大聖釋迦牟尼佛の遺徳を以て長久の分天を聖賢首領摩訶迦羅の
闕六十大菩薩ののち像法末の厨子に安んずる東西に増上する文殊菩薩を以て
作此菩薩の二國と雙の靈佛して釋尊在世にありしより生身の像
あり如来の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる
後、大聖釋迦牟尼佛の遺徳を以て長久の分天を聖賢首領摩訶迦羅の
闕六十大菩薩ののち像法末の厨子に安んずる東西に増上する文殊菩薩を以て
作此菩薩の二國と雙の靈佛して釋尊在世にありしより生身の像
あり如来の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる

大念佛 觀世音上人ありなり
佛の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる
後、大聖釋迦牟尼佛の遺徳を以て長久の分天を聖賢首領摩訶迦羅の
闕六十大菩薩ののち像法末の厨子に安んずる東西に増上する文殊菩薩を以て
作此菩薩の二國と雙の靈佛して釋尊在世にありしより生身の像
あり如来の清妙摩耶夫人釋尊の誕生して後七日に産むのハ切利
天を以て釋尊の道もして祇園精舎ありの天の清妙摩耶夫人
ゆゑの二聖九旬の間の時四衆の軍釋尊の心を以て安んずる

廣澤池
遍照寺跡



後持堂

あつみの月夜

あつみの月夜

任人もきた

ふきの

秋に

夜に

月乃光りも

さしかり

あり

藤原純永



廣澤池の大澤に異なり寛朝僧は池をけりゆりゆり

廣澤池の堰の柳うけあきりもつるまふそりあ

佐後の元慶は小まゆりつてつりつる

山の坊小庵もあんとを林の月よの世あふも園家

いりへの人の汀は秋をて月のこぼる廣澤乃池

中秋の月入んと都下の貴妙池の汀小庵んでより

千里を共うてくまふ空けりたふ月も宿る廣澤乃池

も今さらにあく物悲しく風の織雲は掃く清くあ

降るを寒し謝莊の月娥と似て廣亮をる揚小

月が賞をるる古今小多る

遍照寺山を池の乾小向やうりやうり

真言無修せ池遍照寺の田乃のふれ蒸小あり

赤不動共弘法大師の化之

所ん登天松

系り親音池

寛朝僧の常小橋

想園して終小池

鉤殿橋

千代の古道

帯より池

まのふか岩

源草聖

佐古曾の水

池の西乃の

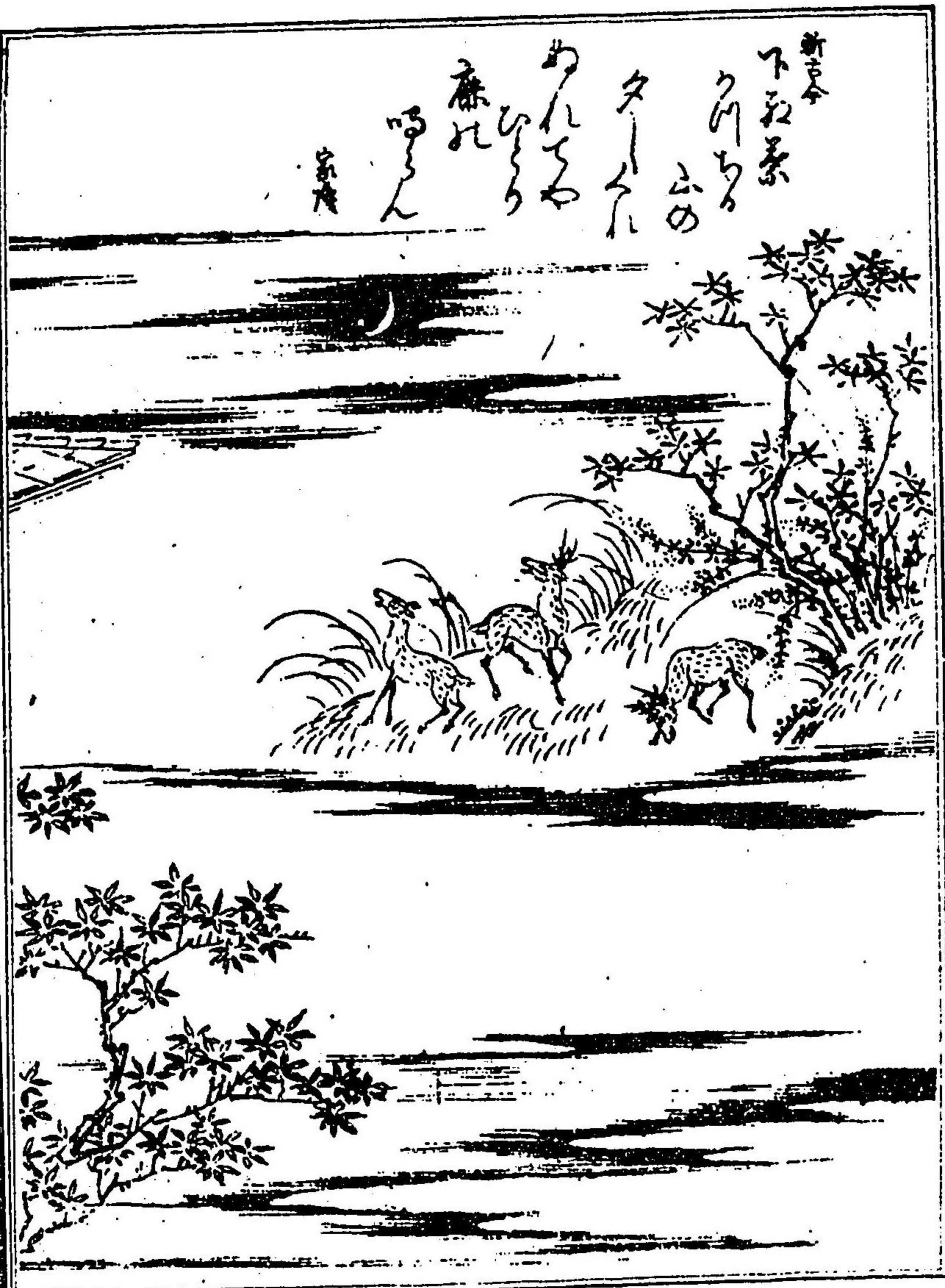
佐古曾の水

池の西乃の



條峯五老勢相連
 此鹿未從碧洞遠
 有野麋人不見
 一生長飲白雲泉

賈島



新亭
 下寂素
 うみち
 夕の
 ター介
 めんてや
 いりり
 森れ
 鳴ん
 泉

嵯峨野の文徳寺清涼寺けむるふた山嵯峨といふ天龍法師の法橋を
迎坂下嵯峨とる行く野の宮の真中途よりいりての閑静の地
して故人も多しあたりこれ秀歌にわおねつらた違ふ源順もけ
かふ持て紫藤の賦を伝る栞屋空く僧侶の家ありぬる秋歌に
し文徳寺のせりりあひる舊野の山も田獵の地ありて嵯峨帝
て所將ありとくあり文徳情和陽燄のこ帝りかこくせせぬし
し光孝帝のこのを興しし清華ありぬあひりいけ野の五人
を遣りて松虫銚虫をいふとせ申入に其の野に虫屋を
遣りてまた虫屋に奉るるる嵯峨帝のこ帝りかこくせせぬし
く日本三帝の第一あり又説文にも連一のりある文書あり奉
れんとてり所佐に傳れ帝に譲るせぬしてあひるる離宮あり
かうれ嵐嶺の白櫻を懸諸れ藤月ふ嵐も心慰れぬとて人の乃
世に人あは野れ女帝花のうらみくたもあはゆとて馬をり奉て

よめる

くふめくくわゆるえりりてあはゆとて馬をり奉て

僧正通照

三葉
の人の草名もかくもの花はなす野四方の白鳥

順徳院

長久二年八月松尾社新奉りてはま宮の女房車
小草のあひるのこして嵯峨野にうらみあひるるる物と
伝るる地傳のつくるもあはゆとて馬をり奉てはよるるる
車のあひるのこして嵯峨野にうらみあひるるる物と

中絶書

うらみあひるのこして嵯峨野にうらみあひるるる物と
伝るる地傳のつくるもあはゆとて馬をり奉てはよるるる
車

香山院

うらみあひるのこして嵯峨野にうらみあひるるる物と
伝るる地傳のつくるもあはゆとて馬をり奉てはよるるる
車

法華寺

嵯峨十景

散岳晴雪

難巖飛瀑

遍昭孤松

愛宕雲樹

五臺晨鐘

幡山靈社

嵐嶺白櫻

仙翁交徳

龜緒落月

雄藏紅楓

野々宮



野宮と小倉山の巽るる葎の中にあり悠記天皇の西宮ありて神明

城あり黒木の多井小芝藩のつりへの遺風あり伊勢を神宮と

神宮ふませゆり内親王は所ふませり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり

ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり

例に九月上旬吉日に定めて伊勢を神宮と

向いゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり候ゆり

松風の多にれり松風の多にれり松風の多にれり松風の多にれり

松風の多にれり松風の多にれり松風の多にれり松風の多にれり

常寂寺を野宮の西ふありは常寂寺ありて常寂寺ありて常寂寺ありて

本尊の釋迦多宝れ二佛之定家郷の社に南のふふあり

金吾秀秋のゆりありて金吾秀秋のゆりありて金吾秀秋のゆりありて

金吾秀秋のゆりありて金吾秀秋のゆりありて金吾秀秋のゆりありて

金吾秀秋のゆりありて金吾秀秋のゆりありて金吾秀秋のゆりありて

常寂光寺



芥川の野宮のまがしを流れ末に井はふさる小川なりむり芥川
 殿とて入流所あり 龜の院 浄土あり 新とて 芥川常寂光の中にてニテ
竹田の芥川院 所あり ねがはれり

歌詠橋の天龍寺のまがし芥川の流るふかろ橋より西行法師
 は所を過りたきいしやとて寺をふさるく和ふれ給ふ言教首
あり 後小西行法師がふしきより一より 號る

薄馬場の天龍寺に東条藤王院のやうにあり 今に此ふいふ人
 龜の甲に知るる人 後醍醐帝 龜の帝
 龜の甲に知るる人 後醍醐帝 龜の帝

離宮院といふのみ何せゆか 龜の甲に知るる人

龜の甲に知るる人の木の樹はあまのこゝろ

春ふさふさいも ねてみるの ねたかきを 宿み 嘆たれ 春上天皇

あめのとれ 滝つぼ 波あらし とき 代の ねる 林の 夜乃 月 大納言通成

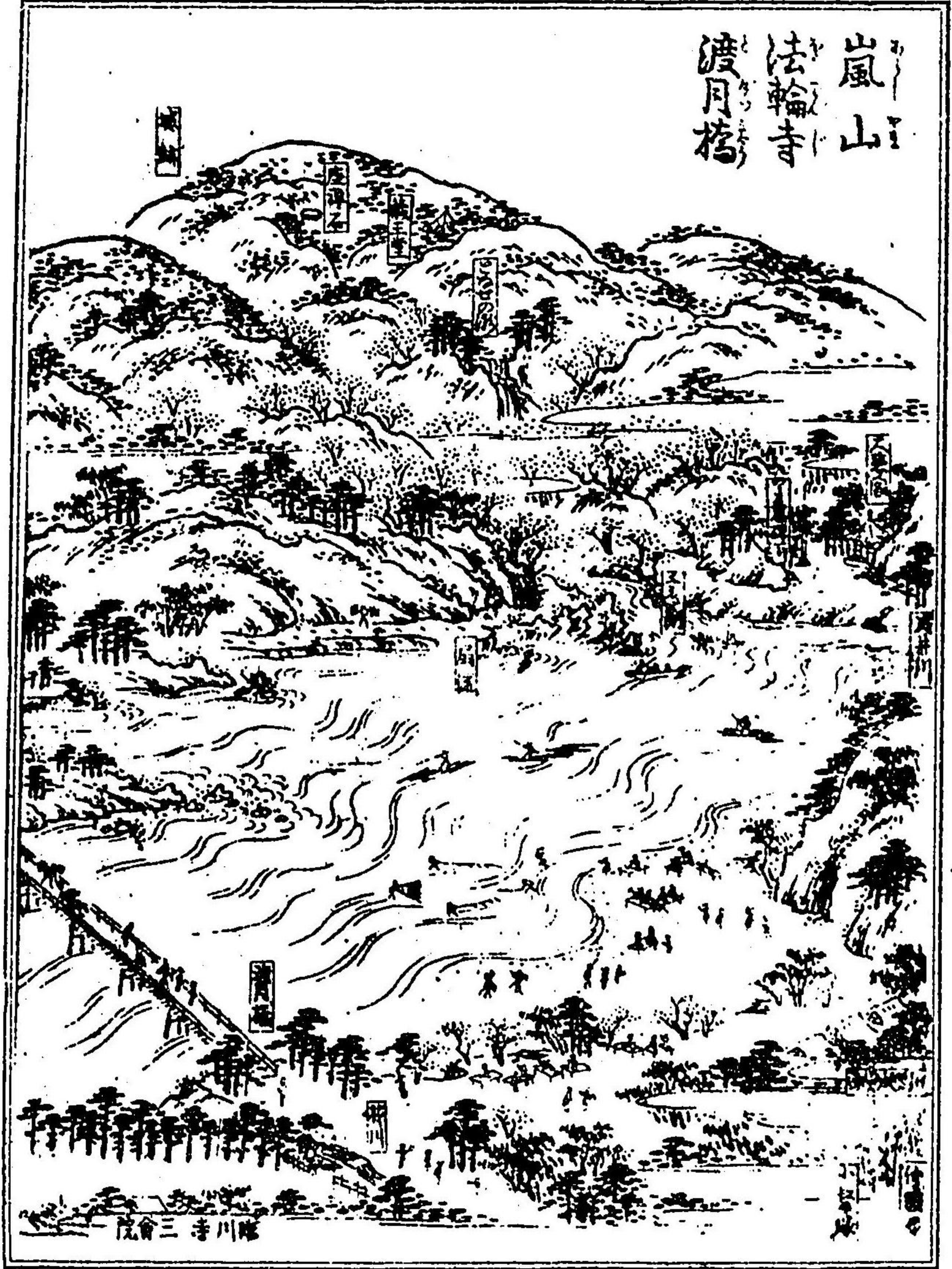
新下 子目さるいついあれと 龜のとれ 雲の 子 松と ため けり 為家



聖龜山天龍寶聖禪寺の五山の第一の大本山のふにのり麻基を
後醍醐師諱の智曜又跡石と號しあつた本細與し樹た形別
の人あり姓ハ源氏なりて宇多帝九世の孫なり母ハ和香にりて
金色の光西より來りて母と和香とを娶り十二月にて母を
四葉少く母少ゆれ九歳に平盛教院とあり出家し十歳に
して法善経を七日に誦し母の恩を報じ母の死に九歳に
柳衣画で独坐觀想し十八にありて觀律師に禮し具足戒を
三年の間秘密の教を受けしといふも大道の發心ひりて
て道場を建百口聖を求めりて一期満の日をて中修終と
して夏之如く長く一倍其の長壽なりと一寺にりて母を跡石
とて又二とありておれ石と名づけ其の一人の長老ありて
客をむりておれ石と名づけりて奉持し一人たりて修し後長
安ありなりとては遠く其身の画徳とまより志は之を

禪觀小歸し多衣跡石とありてありて後長安とて紀應二年九月二十日
七十七歳にて終し當寺の本願は足利尊氏に後醍醐帝追福の爲に
佛達文ありといふは後醍醐帝の御願の西の東山院東 如來寺にありといふ
又明記にありて清長とありて清長の御願の西の東山院東 如來寺にありといふ
佛殿に尊の釋迦佛脇士といふ文字 普賢の安坐に下るの牌あり天皇
大神に銘ありは天王帝釋天尊广臨濟百口の像ありた石の壇上に安坐
ありて佛の像を天皇と號し堂に堂に照堂の縣芳とありて閑との像を安坐の
前にもありて佛殿にありてはまあり 又堂の閑山七朝國師號の勅書七通
像に藏尊と安坐にありて佛あり 又佛殿の閑山七朝國師號の勅書七通
と佛殿の閑の閑國師の能ありては曹源池の書院に書院あり
西のく塔頭多空院の後醍醐帝の佛廟ありて金剛院の閑基ありて
れ上足善明國師なりて光嚴院帝の佛廟ありて真無院の閑基ありて閑
の閑基ありて細川常光の茶店あり其の茶店あり閑の閑基あり
礎石ありては天授寺に九重の塔あり
ありては閑の閑基あり

嵐山
法輪寺
渡月橋



川寺三會院

玉糸
またん
あしの
山の
杖の房ふ
有の
月

佐成



嵐山

嵐山と大井川と帯てふふ向うなるあり 嵐山後醍醐天皇の御所なり

新平 あやうき夏よりいづれもいづれも橋ぶのる影の白糸 後平家景

新吉 あやうき人も嵐のふれふ影をうつし有像の月 法印祥賢

後平 あやうき嵐の花乃影をいづれもいづれも嵐の白糸 前代通善は

権岩やうらあやうき嵐のふれふ影をいづれもいづれも嵐の白糸

戸難瀬尾の権岩の西のあり大井川小流のこ 大井川のこ

五茶 とあやうき流と輝の大井川終ははめる木葉のりたり 後成

坐禪石 あやうき嵐のふれふ影をいづれもいづれも嵐の白糸 定家

大慈閣とあやうき嵐のふれふ影をいづれもいづれも嵐の白糸

本尊観音のま像ありて恵心の能なり角倉了意の碑あり羅

ふ子ありは権岩 嵐山後醍醐天皇の御所なり

智福山法輪寺は後月橋の南のあり真言宗ありて本尊を虚空藏

菩薩れ坐像あり 道昌法師 脇士と明星天雨寶童子あり

更けの後のあやうき嵐のふれふ影をいづれもいづれも嵐の白糸 高道

又當寺の天平年中に建立して葛井寺とあり 大慶の御所なり上人の御所なり

中興の因基は道昌僧都姓は秦氏ありて讃州香河郡のく弘法大師小

真言の密法をうけ虚空藏求聞持の法を修せんとすははるる二百日悉皆

一の五月の辰皓月西山より明星東天より月明かりあり

光炎頓小耀て明星天衣れ袖のうらふ衣衣ありて虚空藏菩薩と現れゆ

縫のぬく影のあやうき嵐のふれふ影をいづれもいづれも嵐の白糸

道昌則虚空藏菩薩の像と刻袖の像と後ゆかりは財弘法大師の御所

因暇供養ありて是當寺にありて貞觀十六のふれふ影をいづれもいづれも嵐の白糸

落星井 又明星井といふ本堂は南のあり井のうらふ影をいづれもいづれも嵐の白糸 惠橋

泰終堂 本堂は智福山とありて是當寺の御所なり

春
花より小春
心もささや
見わたせば
柳橋坂
あはれを
都ぞ
錦なり
うき世
うき世



骸骨れうらな柱て
花見の作

春



大堰川の水よも山丹波より流る水尾川清源川小瀬谷小瀬谷龍門龍
大瀬等の名ありてありて大堰帯一は月橋谷終て末は梅は枝の里
のむくは流るるくは川小瀬

新古今 延喜の清とれた大井川小瀬谷の日

大井川小瀬谷の松まのころの清幸やりのむくも 貞三

色くの本葉まのり大井川まのり川の紅葉くもん 忠岑

は河の流れはの小清くもりてまのりなまのり水の花は引く人か
後のおんくあつた遠近れ懸人扁舟まのり棹まのりまのりまのり
向ふまのりまのりまのり水はまのりまのりまのりまのりまのり
あり水上小踊る若鮎の釣とまのりまのりまのりまのりまのり
まのり夜ふ入るまのりまのりまのりまのりまのりまのり
月小まのりまのりまのり天下の勝地は大堰川小瀬谷まのり
城中の名區は清源野まのりまのりまのりまのりまのりまのり

は月橋の大井川ありては橋寺人橋る橋のり一急を清幸橋は橋寺
橋るる

大井河香るるるの橋の上小瀬谷まのり雨の夕暮 前大瀬谷

小智橋大井河の小こ智橋屋のまのりの中あり小智橋の橋町中納言

淑範卿の女禁中一の美人まのりまのりまのりまのりまのり
まのりまのり相國清盛小瀬谷まのりまのりまのりまのり
まのり清源のりりて明月小瀬谷まのりまのりまのりまのり

山里と味くまのりまのりまのりまのりまのりまのり
龜山のあつちまのり松のまのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのりまのりまのりまのり

十鳥瀬小智橋の西の町まのりまのりまのり
横田の流は小瀬谷まのりまのりまのりまのり
平瀬の流は小瀬谷まのりまのりまのり

平瀬の流は小瀬谷まのりまのりまのり
平瀬の流は小瀬谷まのりまのりまのり

西行攝 法藏寺の南小あり西行法師は所小あり攝之者と稱し今の攝法寺と云ふ
靈龜山臨川寺は後月持の末あり禪家十刹は第二あり

三會院は本尊の弥勒佛ありて坐像之佛殿の類也 三會 足利義満公が

とをけ地を舊龜山法皇の仙居ありて建武二年十月後醍醐天皇

より開山後窓園師小初也 前寺の意を 後窓の御より

鹿王院は臨川寺の東小あり禪宗ありて十刹之佛殿は本尊の釋迦佛

關士小十六羅漢と安主は運慶の他用基普明園師の後尊氏公孫像の

右の壇上小安主は當寺の本領の將軍義満公ありて至徳元年の建

立あり什寶小佛舍利あり 傳小日蓮會將軍安朝公の靈臺にありて安園 妙心

後光嚴院帝の対面窓園師小初して禁裏にあり其法を安主は普明園師小初

今當寺小あり御年十月十八日會合と傳ふ

車折社は下流儀材木町小あり 五通園師の地ありて一法小傳ふ

そののり如牛初れ車折しとて今ハ遠近の商家賣買の便の爲に地を

中ハ社小新し小石をとりありて塚小ありて後代の時作の石小傳ふ

五通園師の地ありて金地ありてとて遠近の商家賣買の便の爲に地を

有栖川 北河小あり 齊宮 有栖川の北ありて人家の

千早振りつたの末は有栖川松とてゆひすしと云ふ 京遷遷宮

惟子辻 惟子辻といふを樹木皇后の殿前とて野小ありとて傳ふの爲に

安堵橋 惟子辻の西小ありて一傳ふ寺のやより大衆ありて未傳の香比耶山小

是より名はけ 甲塚 安堵橋の南小ありて一傳ふ寺の時 油掛地蔵 橋の西小ありて

常盤社 此社中ありて樹の下に石佛のし子地蔵 社の西小ありて古た地蔵の具二あり

常盤墓 此墓の傍に光嚴の墓ありて半若丸の母常盤の墓ありて里の人よりいひ人より

御堂せぬとていひのし小伝を傳ふのれはとて傳ふ

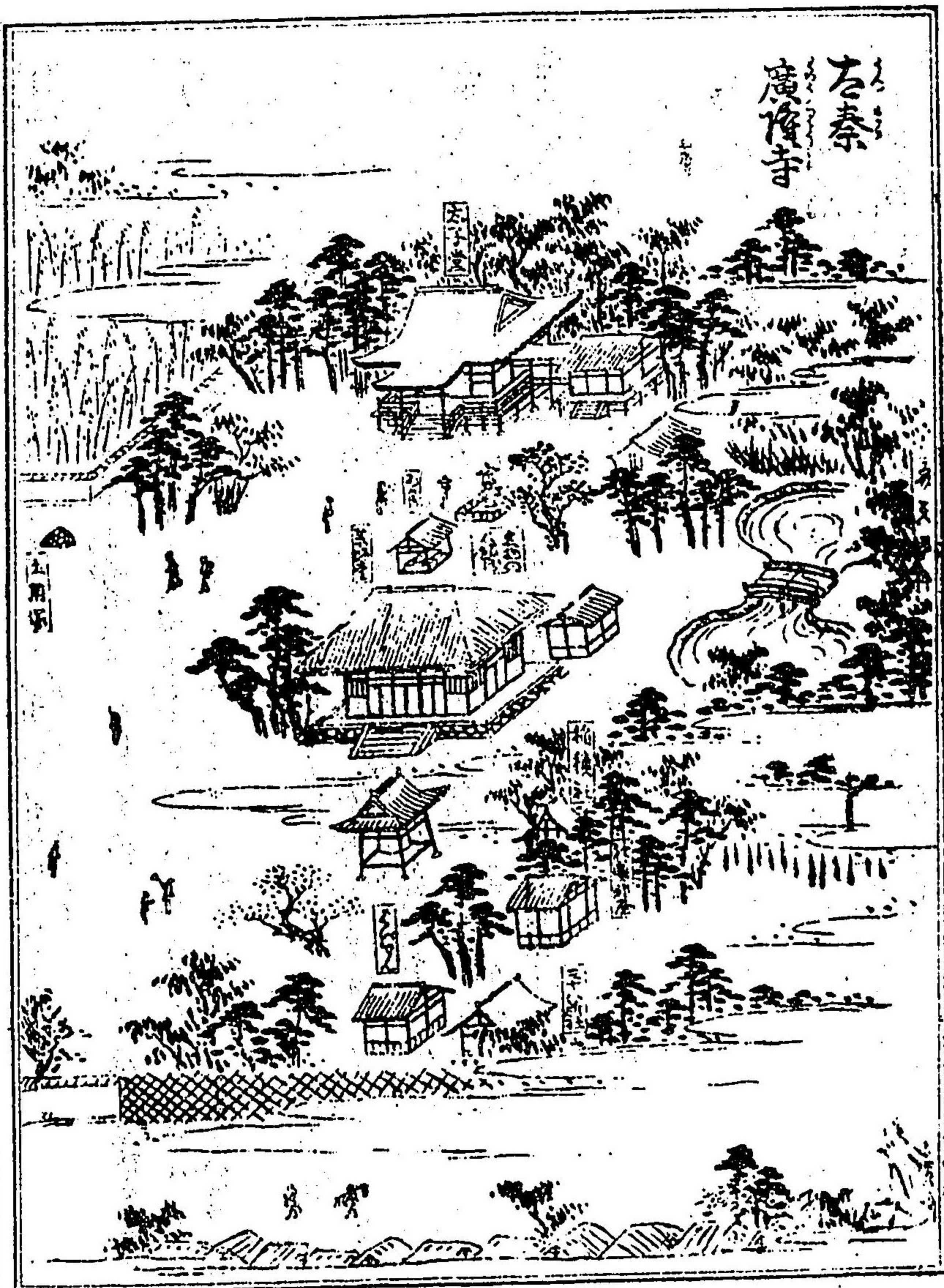
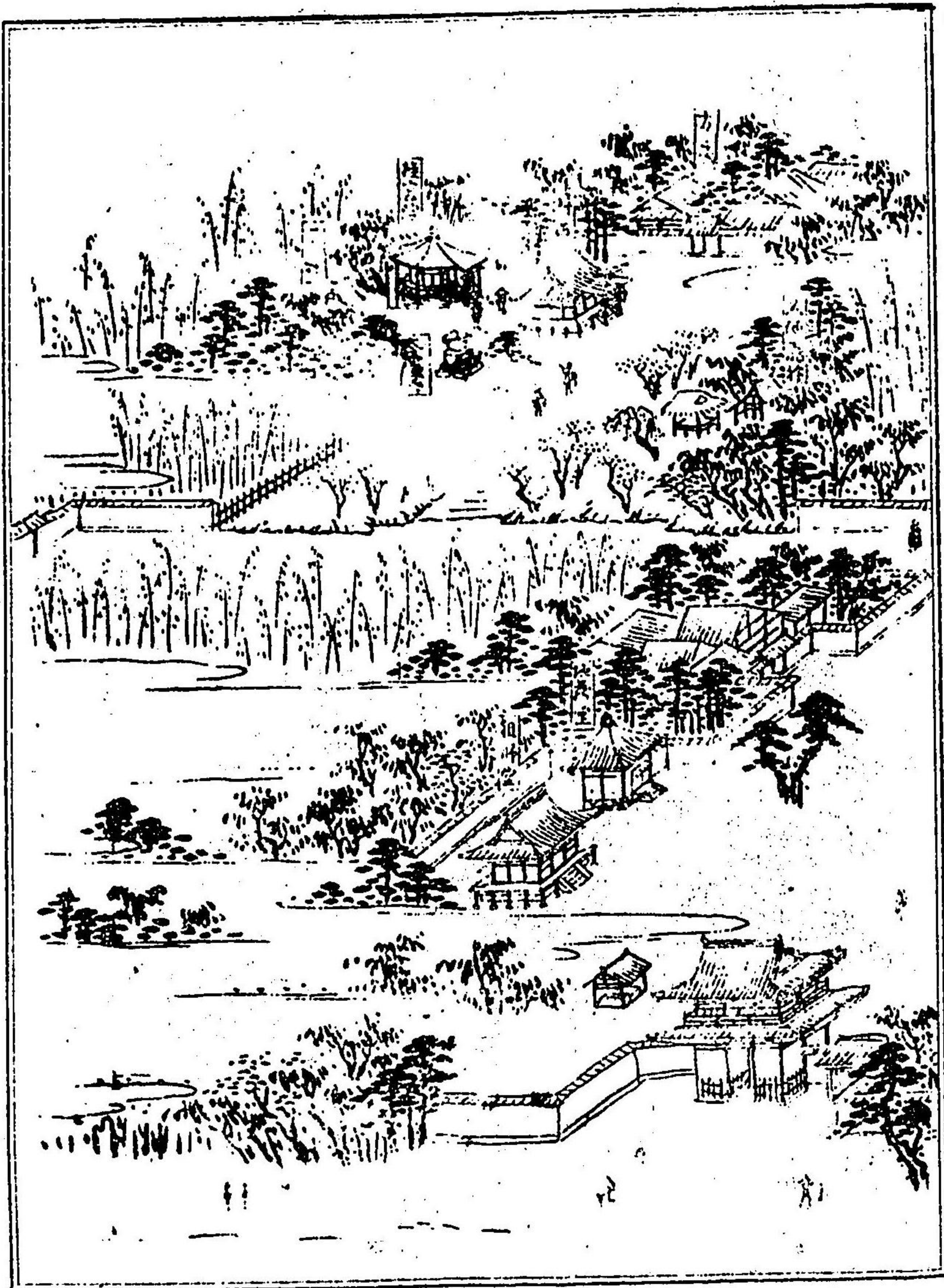
長持とていひぬち長持のし小伝を傳ふのれはとて傳ふ

深くありとていひの社の指より月あを社の意にとて傳ふ

初倉のきとていひの社の意にとて傳ふ

古御所 此所は藤原の末ありて八条小ありて傳ふ

藤木 此の末ありて傳ふ





延々
 何人
 何人
 何人



九月十二日
 右奈牛祭

聖徳太子
 之
 御
 執
 行
 した
 祭
 弘法大師

お泰廣隆寺ハ洛陽二條道の西あり

泰の里の古くは唐神天皇の御宇
秦八日祭あり熱なやりの御説き

み角備はくろくして人の唐をありてありぬ故に唐神天皇
ふくく唐神天皇の御説き 當寺のそとあり推古天皇十二年八月八日大和斑鳩宮で

聖徳太子近江秦川勝原宮で宣す事ハ初は後漢の文帝より進歩のつと
一村あり楓林繁茂清香常に薫り林中小木あり朽木あり無量は賢聖

諸経の要文を誦しあり天皇妙法依供し又あり老翁放微ぬの尊
何のて妙法は深遠今され竹地は生ハ川勝ハ則駕成めらばして前殿は其日

葛野の大堰小堰へてまれざるありて後れぬ楓林の中小大園の柱樹あり
異香薫り其樹の空虛小者瑞光寶園あり光明赫々として蜂多きあり

齊賀殿は隨身ありねば拂も盡し凡人ハ蜂とるんれも志子の賢聖とて
ありのめ入則假宮城蜂園のそとあり造て川勝ハ勅ハ百濟より有り佛像

は安座ありまはは蜂園寺あり 後小唐隆寺と改む唐隆
川勝の名は上徳記の大意
本堂の薬師如來ハ向日明神の所也之傳ハ白山別して訓郡向日明神乃

社前ハ楠木あり筑国の年ハ唐よりあり一日異人來りてあり後代に

佛像ハ造り南無醫王尊藥師佛と稱し勿神願ふ入てを以て衆人足は依
聽く其徳也志ハ靈驗ありて耳目に發る日郡大系寺 日本後記延暦十二年十月
此社の佛像と大系寺

あり小智威法師とて人唐より來り居る社司等の傳ふありて都都
袖とつゝの群清ハ感應はらる新あり智威法師とて後丹後玉石寺

あり其後清和天皇勅して當寺の存するもの之 待賢ハ侍候まの存まはし
御下後後清和天皇勅して當寺の存するもの之

太子堂ハ聖徳太子御自他の御像ハ安座代々の天子より黃檗派の御袍
御下後後清和天皇勅して當寺の存するもの之 今小堂を二十八所
小寺を遠藤の軍國あり大流の園と稱し

地藏堂 金堂の西よりあり 鎮守社 二十八所の
伊佐田井と云々 圓伽井 伊佐田井と云々 天
土用塚 太子堂の西道の中央あり 大酒明神 天照を神ハ惟宮天照天孫
を祀る

掛宮院 太子堂の西一町ありあり八角あり
天皇十二年より自土木の功あり

掛宮院 天皇十二年より自土木の功あり
掛宮院あり

祖師堂

祖師堂の西南ふり中... (The text describes the location and history of the temple, mentioning its relationship to the surrounding area and its significance.)

祭文

夫以世... (A formal prayer text (matsubushi) for the festival, invoking the deity and asking for protection and prosperity.)

本嶋社



新勧修

何年

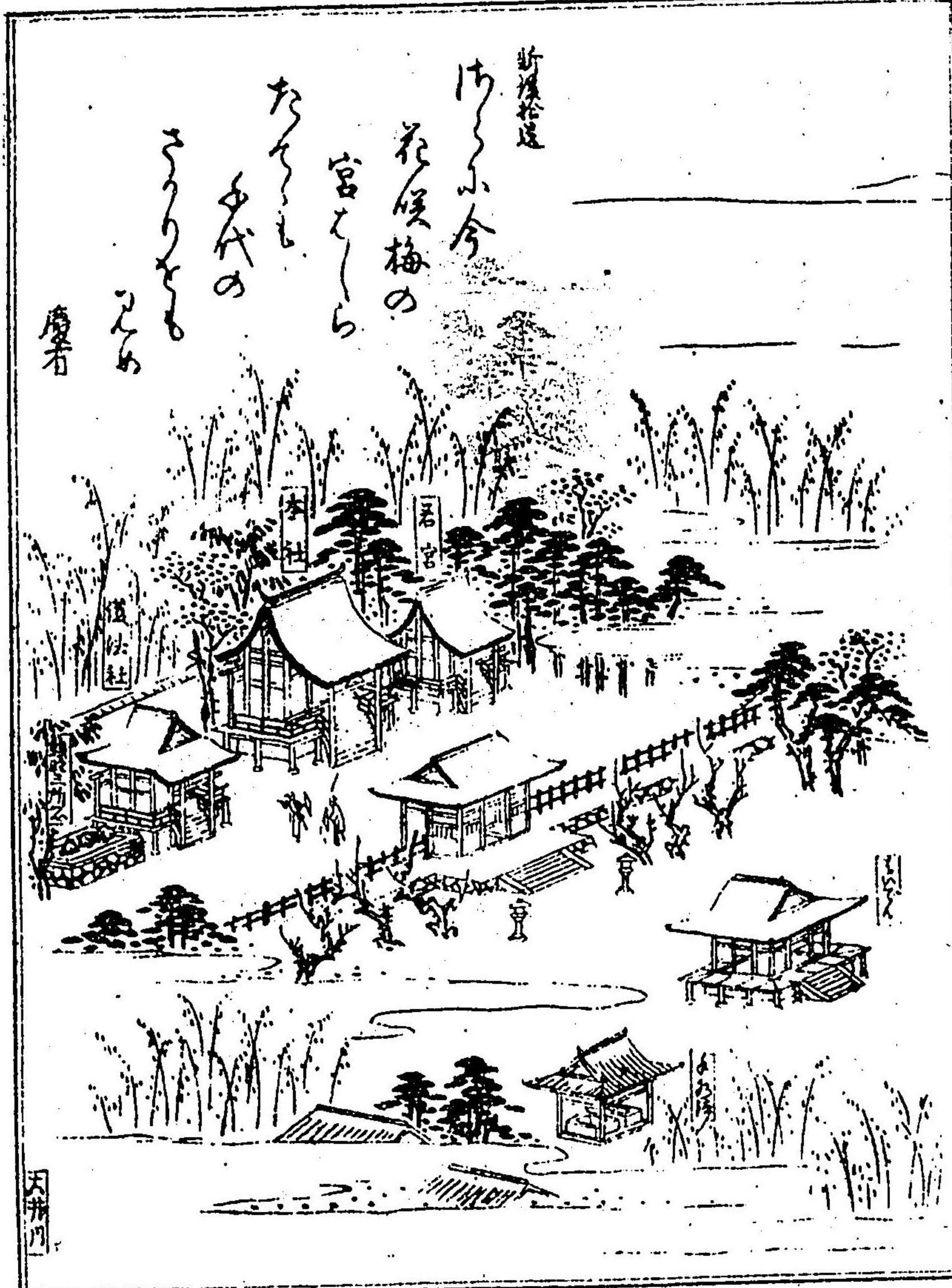
白の

白の

看にまぐら

まぐら

後醍醐天皇



新撰拾遺
 今
 花候梅の
 宮
 た
 女
 三
 廣者

天井川



梅宮

山

山

山

山

山





草物や

鼻の

さた

お

あ

の

其角

明智坊石像 松尾社の小一町をり、明智坊の門の横邊より大元と
月讀社の松尾の南二町あり、松尾七社の内あり、當社鎮座のくもり住吉ふ
以前よりとより、南三町三月三日、松尾の南二町あり、文徳
實録より出たり、文徳帝降符仁壽三年三月三日、松尾の南二町あり、文徳
當社の神託ありてその害と救の人はより、と實妙庵の巻の巻人より、い
神のたより、神のたより、神のたより、神のたより、神のたより、神のたより、
松尾の松室の西住還の傍小あり、小社あり、幸の社あり、
美濃寺の月讀の南谷村竹林の中小あり、松尾の南二町あり、文徳
日如未九小釋迦佛、頭室の松尾の南二町あり、文徳
以の額奉、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、
の起明上人の住のい、谷堂の回、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、
再興のい、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、
衣平社、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、
秋毎、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、
涼、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、松尾の南二町あり、
為氏





山の手より橋本水戸の
 里大木ありふさし樹は
 大なるはふさし樹あり
 子規すてんし林の風を
 やくくひきききききき
 けりくひききききき
 一草ふききききき
 早辰物守のきき
 ちり

久遠寺の桂の西の橋あり は所寺内 雲原を獲る懸所ありて西山清功の終

阿弥陀堂 本尊は安河弥の 同基の覺如上人あり 當宗の用と親なる所あり

の上人あり觀應二年正月十九日 覺如上人塔 堂處は 千の面 當宗の

八十二歳より入寂と 本社の面より早の年里人なる人あり雨と祈れを愈且驗あり一年西六条本寺

の堂藏小叔し小寺内蔵翻して此た又は所不取し今ふあり當村小災うと分す

大枝坂の推原の西一里ふあり 時の西を町よりふは橋丹は因縁の立るあり

酒吞童子首塚 是所あり大は山の鬼神な平けて

峠地藏 是所のりて堂しくあり意公僧都は所ふ家一持念親はの時の女

唐櫃越 葉室の御侍は此藏の面より丹はの王子村はる間道

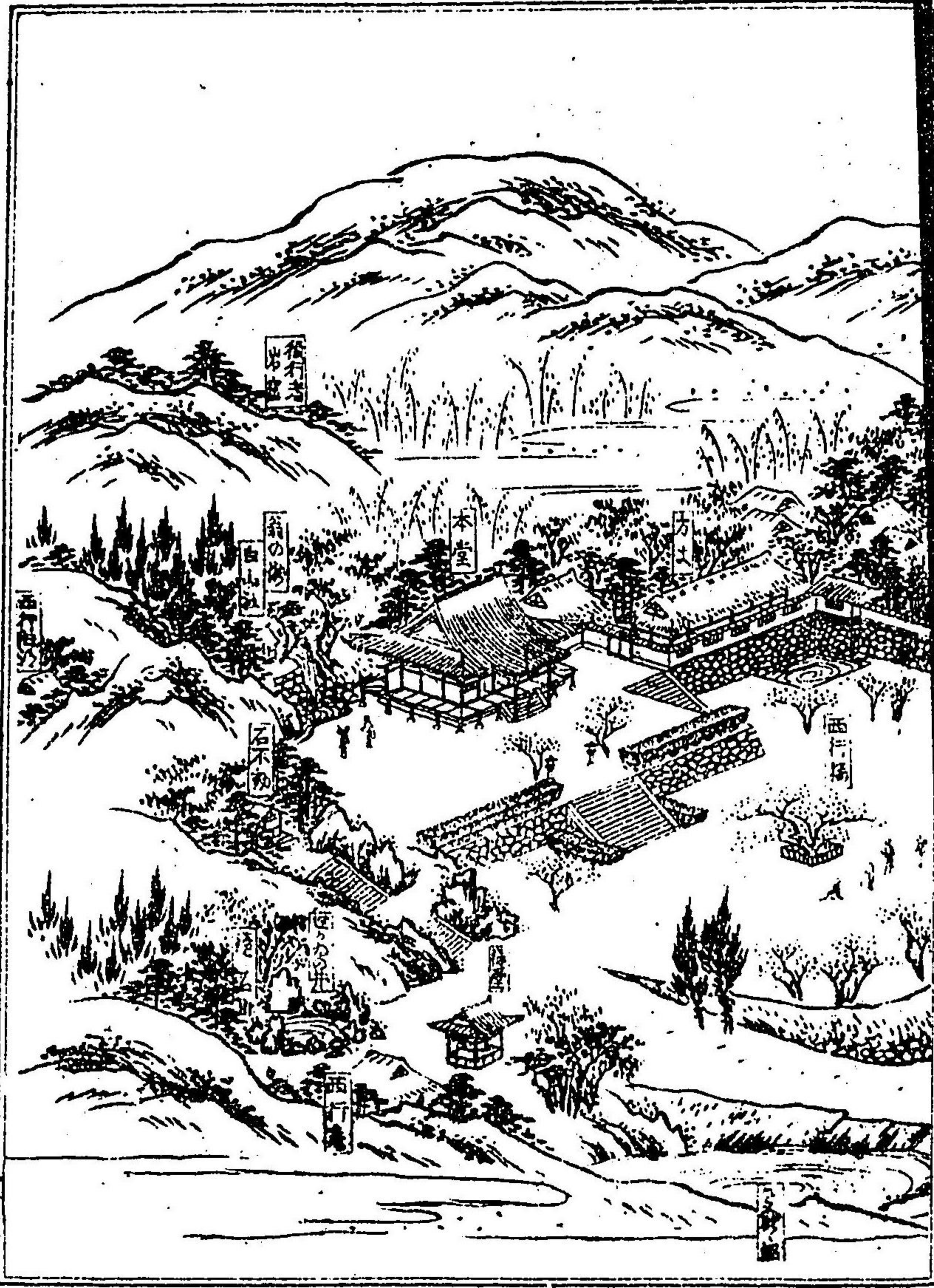
大原野 樹原より神二十町ありふあり民村多し

知子啼大原山の様花のりふありそまろ〜〜〜が 藤原實方

大原野春日



花の寺



春日社の大原野林中あり

二條のまじりのゆき東宮にそと所とすへりあり

おぼろけのゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

おぼろけのゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

大原社にありんつるゆきゆきゆきゆきゆき

おぼろけのゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

當社の神は武甕槌命齊主命天津兒屋命姫大神の四座ありて

往昔仁明帝嘉祥三年大長冬嗣公はなほ法一の南都三堂

より御清平安城守護神と定めてあり

五條后媛子孫を法一といひしは藤原の臣

にありて南都新の御社にありてあり

二月上の春日社

大原野中あり

大原野中あり

小塩山勝持寺と春日社西小塩あり

師如来の佛堂あり

ゆて自他不動明王と本尊あり

四十九院總てありて歳重なり

建仁文徳天皇御代上人と仰降後

法師像西行様堂前のたを西行菴室

終日たのほとありて西行の

河野沼石壇の下辨財天社あり

いふはさけをせむはる

毘沙門天傳教大師のたを

二王門金剛力士と安んん

慈鎮和尚は地をたのひ

茶屋にありあり

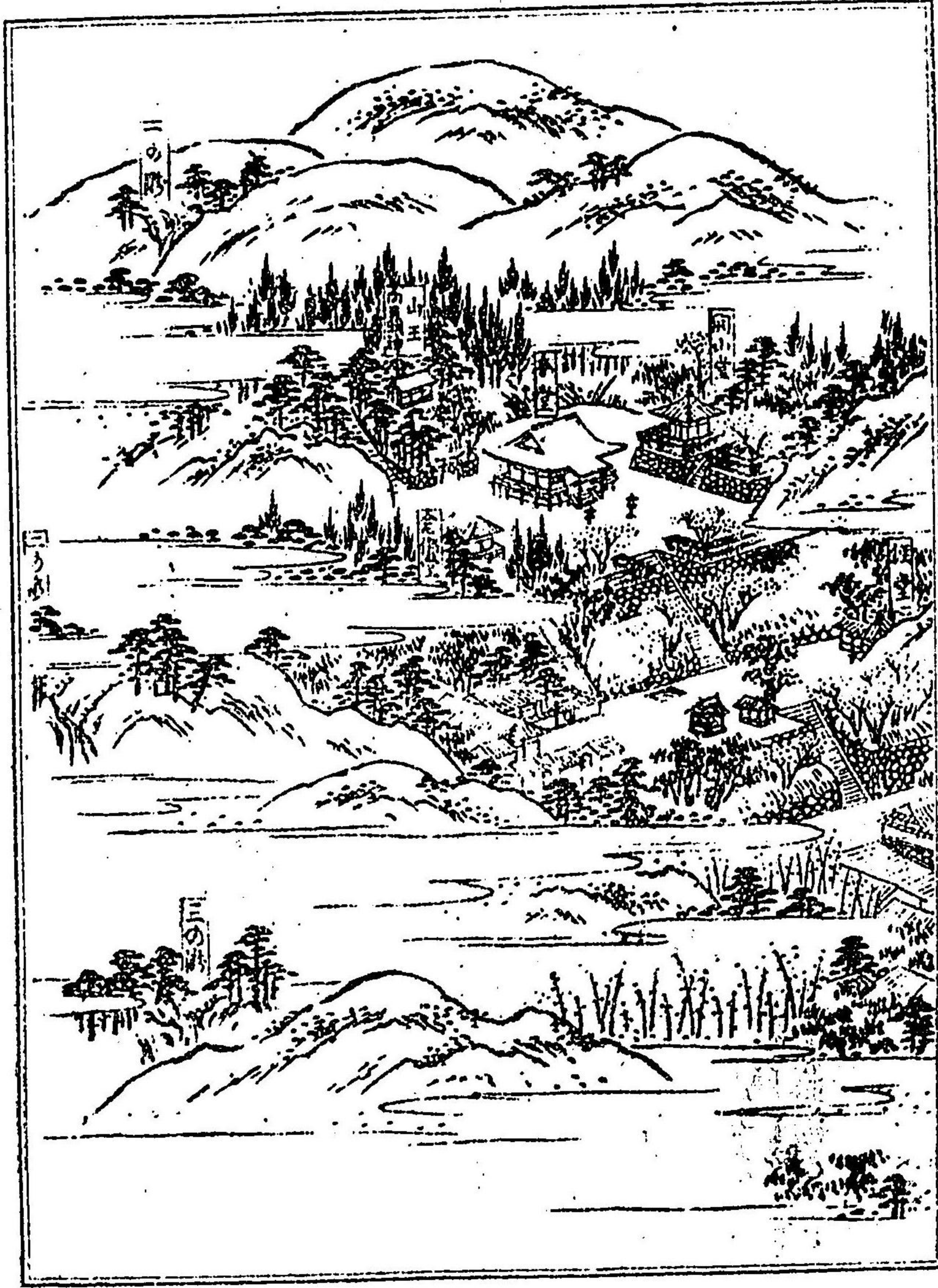
光緒

光緒

光緒

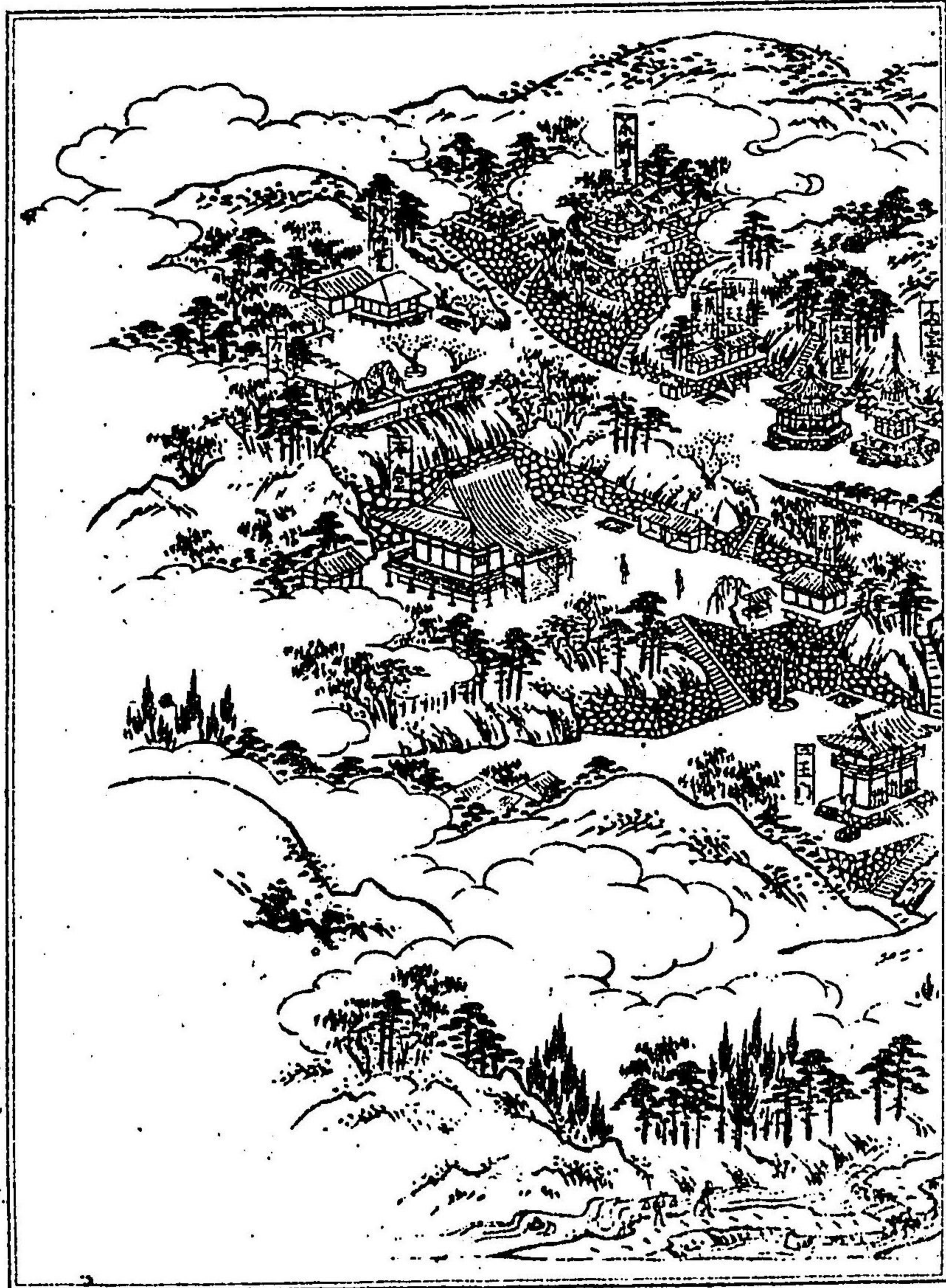
光緒

光緒



西岩倉
金藏寺

西岩倉





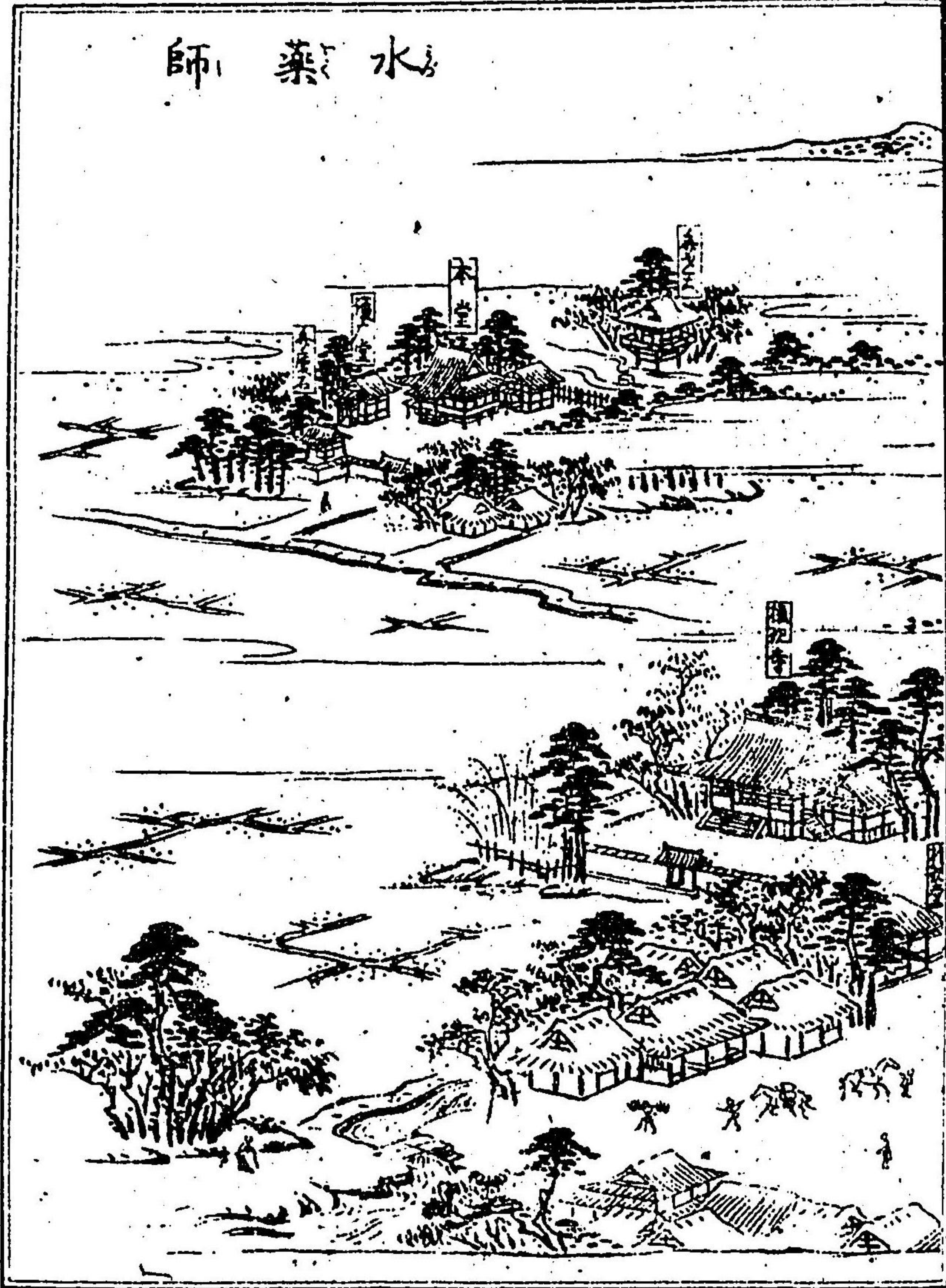
増設拾遺
考てり
秋の
名跡と
小塔ふ
麻と
こよひ
あわん
らん
中臣師宗
西山十輪寺

西山三鉢寺と岩倉の南原谷にありて宗上門の
 本尊佛眼曼陀羅を觀性法橋の寺と日本無二の曼陀羅ありて
 壇上あり釋迦法陀の二佛安坐を惠公僧都の修之堂ゆふを智者
 大師像善導大師像善惠上人像宇津宮蓮生法師像等を安置
 金色不動を智證大師の化之方とて奉る小塔阿弥陀仏と安坐
 拘止阿弥陀如來の善覺大師像あり何れ陀佛と拜せんとして
 善導の慈定なる慧の感信を以てして佛を敬ふと佛ありて聖
 師ありてありてありてありてありてありてありてありてあり
 一寺の西三條道通院の寺なり
 當寺の用基の源系上人の觀性法橋表鏡和尙といふ年記あり
 中興を善惠上人の善惠廟塔之由ありとあり碑の銘あり
 當寺に絶頂の巖窟ありて其形三鉢小塔の如しとありて
 三鉢寺といふに高取高槻森山寺なり



業平の母は信
 州の五所い長
 同いふふと侍
 勢おぼふらん
 侍りたる其所
 小徳ののらも徳と
 りん野すりたり
 いふそまのふ
 屋は神祇の
 花もさのけり
 し所ふらふらん
 いりて徳ト
 懐海のおると
 ふらふらん
 さほりた

水藥師



朱雀權現堂
鳥義塚

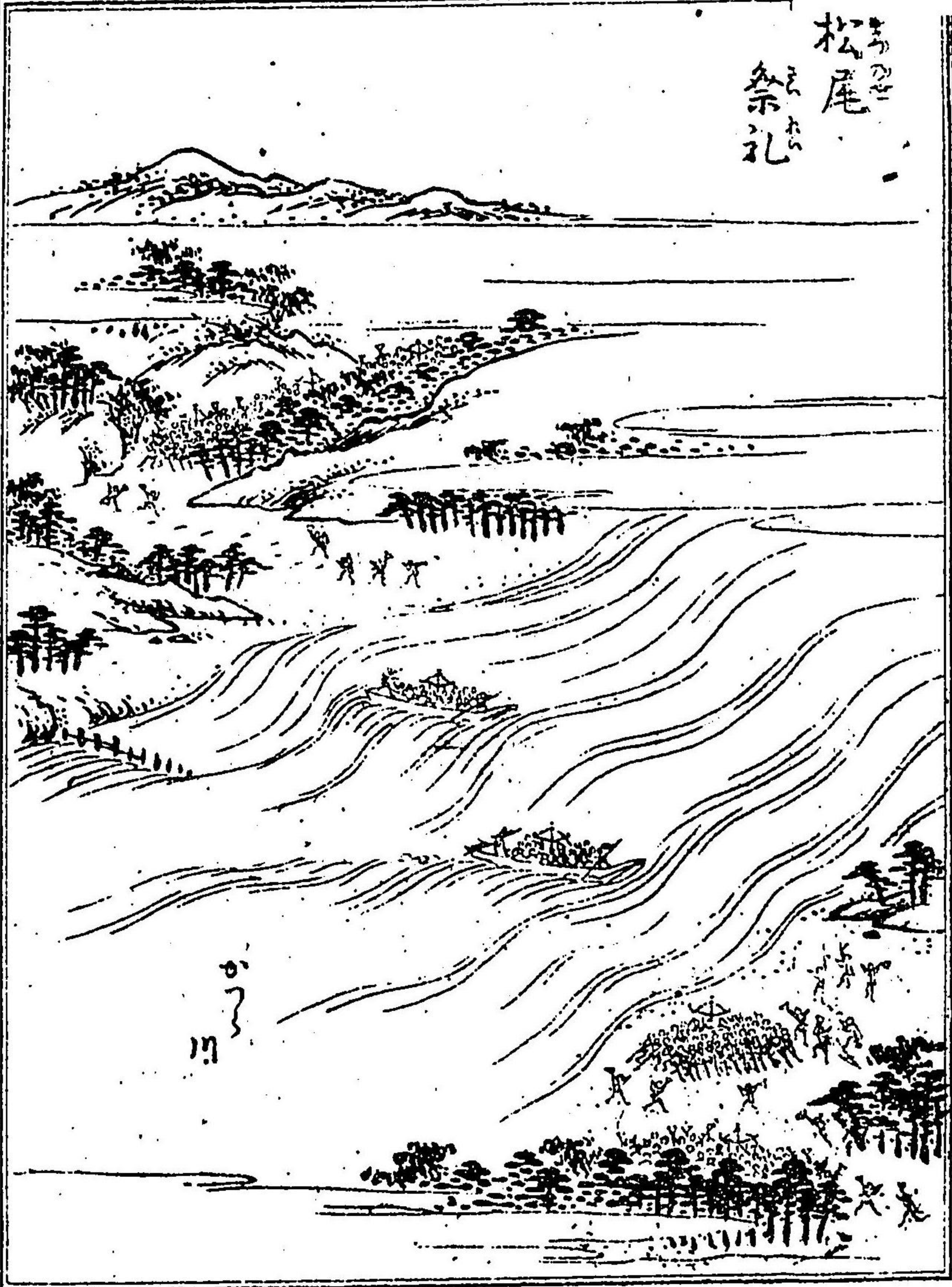


権現堂の七条千本通あり本尊の勝軍地蔵あり聖徳太子の御像あり
 又將王丸の守をたてて送て安んじ
 阿弥陀佛の御念をたてたり
 當寺の権現堂あり
 源為義の塚あり権現堂の前あり
 嘉屋御所あり
 細敷天神あり
 水薬師寺あり西七條の南あり
 西の嶺あり



西寺
 古跡

松尾
糸礼



川勝寺の西七條の西七町ふあり むら 桑川勝が盛衰の所なり 則て村に中

西寺の旧跡を梅小流れるふあり 今松尾の西にあり 寺の跡は西の方寺あり

唐橋の四つ塚に西六町ふあり 秀吉公朝鮮出陣の時此の御遺念あり 此のい

ひのくさり唐橋通あり 中唐橋通といひ 橋の跡は唐橋の号なり 又於此の六

その下流より唐橋といふ 橋の跡は唐橋の号なり 又於此の六

吉祥院天満宮の唐橋に南ふあり 本社は菅原氏の所なり 吉祥院なるを祥

天女を安んず 傳教大師の化なり 此の所は菅原氏の御領地なり 別荘あり 菅

船中より 船中より 船の跡は船の跡なり 傳教大師未法の時入唐し 則ち同船

傳とて 傳とて 傳の跡は傳の跡なり 傳教大師未法の時入唐し 則ち同船

石原井 石原井の跡は石原の跡なり 傳教大師未法の時入唐し 則ち同船

鳥羽里の四つ塚の南あり 上鳥羽下鳥羽と南の鳥羽

鳥羽の南あり 鳥羽の南あり 鳥羽の南あり

鳥羽の南あり 鳥羽の南あり 鳥羽の南あり

鳥羽の南あり 鳥羽の南あり 鳥羽の南あり

鳥羽院

前中納言権進

菅原氏

吉祥院
天満宮



上鳥羽
實相寺
貞徳翁塚
地藏堂
六五〇



下鳥羽
徳塚寺



實相寺の上鳥羽西側ありは眞徳翁の像ありて圓基を大體上人あり本堂乃

脇壇に松永眞徳翁の像あり 松永眞徳翁は長頭僧之職階ありて新久

貴城威亡のときたゞありて母方の親族に在りて長頭僧の位に昇りて

盧丸屋 本堂の裏にあり眞徳翁の墓ありて 眞徳翁墓 此處に在りて

應二年十一月十二日 卒八十二歳

これ死するは橋をたぎらざるも佛にあらざるやと云ふ 眞徳

あはれいふべきの事いふべき事いふべき事いふべき事 全

と云くれば月もさうせぬ事いふべき事いふべき事いふべき事 全

廻地蔵 實相寺の南東側ありて地蔵の像ありて 觀音堂 地蔵堂の南に隣り

徳塚 觀音堂の南に隣り寺の門前ありて 徳塚 徳塚の碑ありて

小枝宿 徳塚の南に隣り 小枝宿 徳塚の南に隣り

秋山 徳塚の南に隣り 秋山 徳塚の南に隣り

徳塚 徳塚の南に隣り 徳塚 徳塚の南に隣り

徳塚 徳塚の南に隣り 徳塚 徳塚の南に隣り

徳塚 徳塚の南に隣り 徳塚 徳塚の南に隣り

衣の羽田に里に指さすくまなりね杖のふらふら 法苑
 夕日さした杖のふらふらなりてま羽田に指さすくまなり 等持院
 法塚寺小枝町南八町とくり小あり 堂の南より 銘曰渡邊元新門尉源渡邊
 加装法前秀玉善尼墓 天徳元年甲子年六月廿四日文上人風基法塚元
 遠藤武者盛遠 出家して 渡邊の妻と志奉りて千束の糸とあり小真言に
 随い渡邊と盛遠をた斬りと貞女の様なりとて世のまろ所なり
 法傳寺ま法塚の南あり 經の真言宗ありて存るまの宗師佛心安堂
 行基の傳と 洛東智恩院住職因智上人は寺小田居して淨土宗と改む
 本尊の阿彌陀佛の惠心の化之善導大師像の他 法然上人は然上人像
 西山上人の化ちり 方便水 念仏を唱へて井を掘りしり人の化あり
 二祖聖面の像あり 一念寺 法傳寺の南あり 本尊阿彌陀佛の春日他あり
 横大寺を下名羽の南小横くしりの道にありあり 秀吉公の代は所と
 運送するの舟着ありあり 毎朝末まで参しをる又法苑の末文はよりし所なり
 野々山よりて米阿を多し



鳥羽の車賃の
 名羽に載り
 はしくまなり
 物許ありしと
 いしゆらゆ

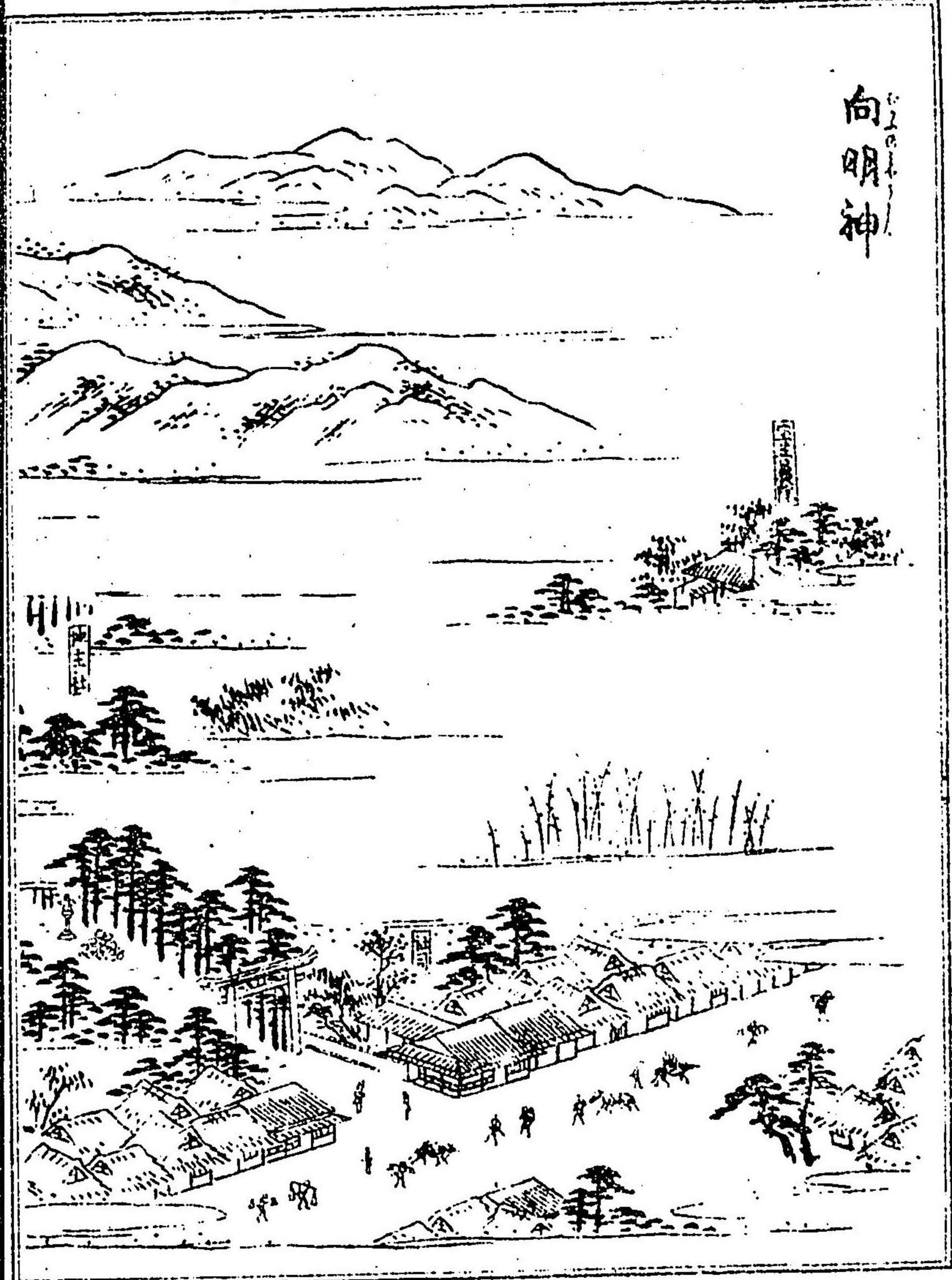


羽東師の表を
 久世より二里許
 南ありて之我
 晒れ東にあり
 そのうの社
 天津兒屋命と
 記す

金栗
 家の風
 ふっねおゆ
 そりりの
 柱のこま
 なーくさける

藤原政補

上久世藏王堂の醫王山光福寺と號し宗有ハ四宗兼修ありて亦そのハ
 藏王権現 授け者の他又二門の け寺の初め村上帝の御宇天曆年中より
 津藏貴所 當寺の 吉野の奥金澤藏の咄お録して一にに客ははひひまより
 洛ふ録んとの入夜ももく現まありて藏王権現忽法としてありて
 のい宮へ入りの女半はは絶多くは七神女の身り今都小畑の宮も
 供もせおく有縁は流生は成るんを貴所奇異は多いを言若まはひかた
 と縁て肩ふ結び脊に則肩奉る法を志たに忽化して本儀もりのり
 桂川の西にありて近より持しめる録るは水も流して水もはかりて水の
 つかんを又一の森の人の光明ありてそれい女取天の巻場とせん終く
 藏王れ神像大石はめりて知る是も有縁地と悟り別州をあらま
 持念をいしと夜西のつふとる柳生及又明天光翁められ柳小向を
 辨財天醫王善逝と唱へて拜と貴所はは宮の宮をて女取天取の
 たり今時よりか藏王権現地はまも早く松園を建て安住せし利益度大



向明神

乙訓寺



大慈山乙訓寺は西園今里にあり當寺は推古天皇の御願りて聖徳太子に同基まり其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補は幡宮に示現後藤り大師は像彫刻しゆに所首八幡宮化現し神像まきまみり人足密法擁護のありきり故に神佛合體の御影とて當寺の本尊是之例載二月廿一日開帳と又寛平法皇脱履のとき行宮とて人足はゆいては御影もも名づいし一々方境廣大りて伽藍嚴重なり中頃南禪寺の伯英和尚住職し又武別護持院再興ありて真言宗とありしをいふ

乙訓寺の東にあり大師密法修りの時坂中し一靈

今里 乙訓寺

同寺は遠の今里故実なり西園面に相たるべく 乙訓法興王

明皇村は今里のちりしあり推古天皇離宮ありし所なり



東生光明寺

報國山光明寺の粟生野にあり宗有淨土ふ西山流峯の一本寺と奉尊因光
大師坐像ありて自他有り法然上人四圍に遷し人の母儀の消息ありて
有り申す事あり世に張子の仲結と云
阿弥陀堂の本尊の惠心僧都の他ありて江別堅田淨土堂千體佛の中
尊を熊谷蓮生法師に因を肩せりてけ所あり海の州方ありて
安樂に法然上人の廟蓮生の塔の本堂のうしろの山にあり石椁に
阿弥陀堂の傍にありて方丈に御鉢釋迦佛を安置され
當寺の草創に法然上人の滅後十六年ありて叡山の衆徒念佛
宗の繁盛をみるに法然上人の所他選擇集に破して
彈選擇集に并授堅者定照房と云ふもの著し陸實律師のりて
以て送る陸實則具各不顯選擇集に述く汝の鮮案のありて
るを時夜の磔の如く書は山徒大不憤く之塔不簡深大流
峰起して圓基僧正小後一奏用は遂く陸實之故遠流ありて又
上人の墳墓と破卻せんと評義まらくするに汝徒身ありて

聞て大不敬に佛壇依他所へりてと夜ふ入て人まらけ石椁
と掘りし具介上人所持の袈裟衣そんてを奉來座坊のりて
送る具介二年安貞二年正月ふりて上人の石椁より光明のやれ
一くを奉座坊のやれと光のそんを奉くるに奉くる遠の南の
粟生野れやれりて至る則は所に住る幸阿弥佛のそやふあり
て具介依てふ幸阿弥も不思議の靈告ありてまに有合はまら上人
の法身を奉くるに椁と粟生野にありて是後同するに上人の面見れ
存目あり則當寺の山腰にありて茶毘の時小忽終して粟生野に
ふありしに興香四方にまら則舍利を捨つて廟堂を造立し淨土
一字の宗廟と云ふ粟生野にありし所にありてこれ粟生野と云りて今
對立あり己上當寺縁記の意と云
惣して當山の淨土の地ありて山林の陰に室園をくらん常行念佛
の聲を聞く講堂に二万巻をくらんて真如の月を揮う秋葉あり
風流ゆる黄金と布の紙陀園もいづれ當寺の奉安に代りて此地
興寺に代りて此地



揚谷観音堂



奥海印寺寂照院

長岡天満宮

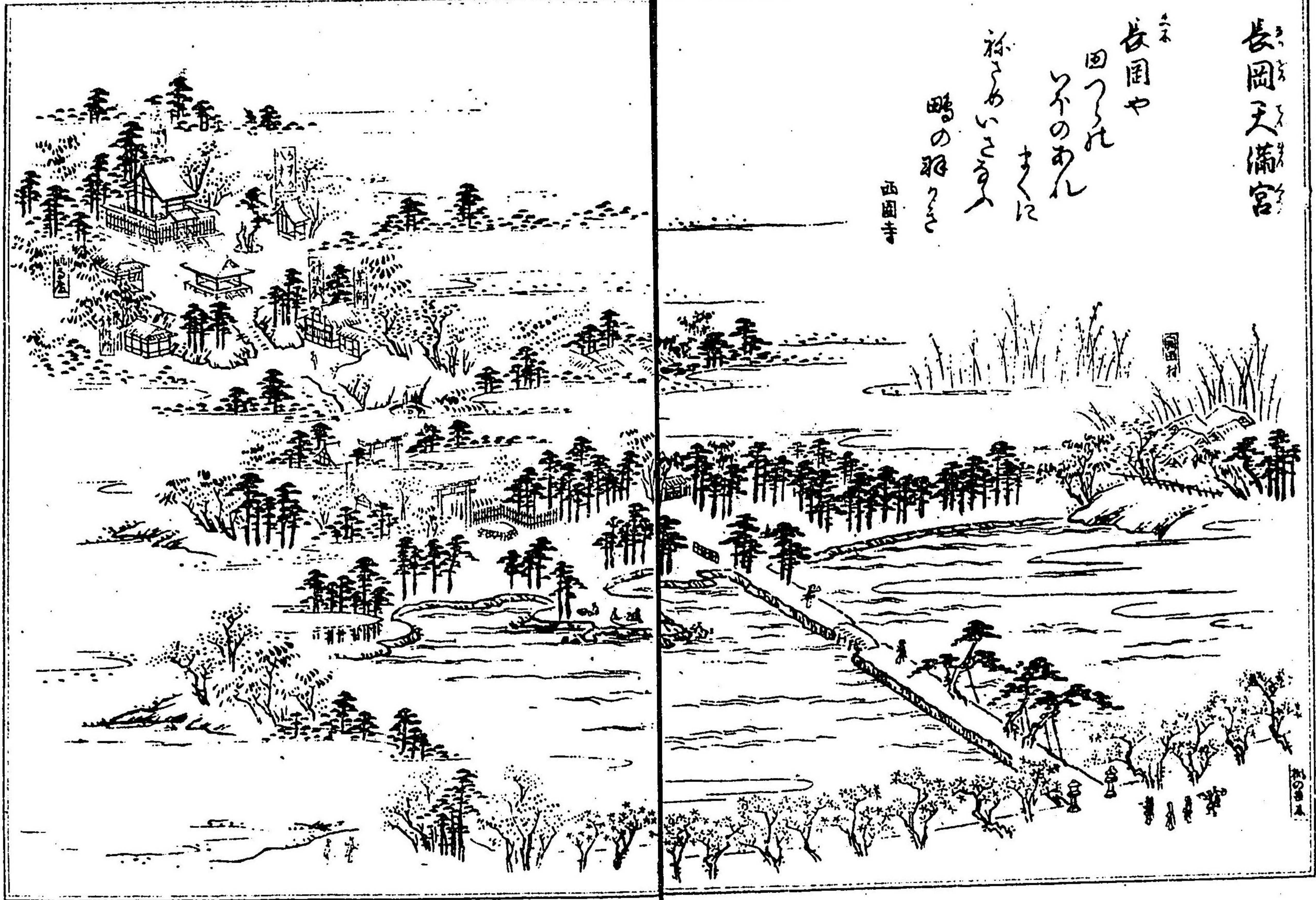
長岡や

回つたれ
りすのあは

すくに
祿ふあはこさる

鴨の羽くま

西園寺



小土山奥海寺寂照院ハ栗生の南十町余小あり宗尊真言師として
 佛殿ヲ奉尊ハ千手観音安坐弘法大師の能より二王門の金剛力士ハ
 運慶の能よりと云用基ハ道雄僧都又當寺のらと人殿岩と号する
 所あり好見菩薩善財童子とありければ法華經を僧都ふさけし靈
 岫あり又奉尊觀世音ハ推の本のうふ出現しありけりよ本上と云
 いハ道雄僧都の俗姓ハ佐伯氏ありて華嚴を尊い後小室海小法師を
 真言の密教を授る嘉祥三年小推少僧都と号す當寺傳記の
 妙見のやしろハ西の山林小ありけり里の氏林と云ふ 九月廿日あり
 柳谷觀音堂ハ奥海印寺村の西は里と云りありと云預山揚谷寺と號す
 奉尊ハ千手観音ありて將軍地藏毘沙門天の職士あり當寺ハ白川院
 中半水觀上人閑居の地ありて奉尊感得しあり
 揚押の殿ハ奉堂の下壇たあり法人の所をしあり流の溪川流と云ふ
 小鳴て後小倉の鳥井の前を經てし所のありあり又入りし所ありと云
 長閑天満宮ハ岡田村ハ西小あり當社の天満天神宮の鎮座に
 神殿の額ハ靈元帝の宸翰と社記ハ白菅丞相と宰相小倉の
 由ありた替くけ所ハ駕と云ふあり菅氏東小法師社菅氏東小法師社
 とのけ地を曉しありて清涼社と稱しありた菅丞相と云ふ
 尊容をうけし祐房ふさけけり後小社を嘗て長閑天満宮
 と崇奉す
 社頭の道の左右ハ池塘廣くして凡生トてハ細浪漲り萍蓬ありてハ
 魚鱗のくろけりみハ紅紫多くして水の面に夕陽を映はれ秋の暮ハ
 蹴躑と凡そありと云ふ
 輒園ハ岡田ハ南小あり
神田百有
 少納言少納言草子に
 ともありしと云ふありと云ふありし所あり

夏邦

小倉明神



小倉のやしろの圓明寺の里に還り十余町西の山林あり本殿の

正一位小倉大明神例祭を四月五日ありてけやしろの春あり

毎歳四月二日に猿樂あり

京六条蓮氏より

圓明寺の小倉山の南小あり本尊の眞師如來ありて聖徳太子乃

所化あり當寺いみじくへ堂塔魏々として九條殿下光明峯寺道

家公の州創あり所子圓明寺撰政實經公晩年ふるんで父祖の遺

跡を承りてけやしろの山莊を構て閑居しゆるにけ所より於て覺

ゆる所墳小倉のやしろの巽小あり

歸海印寺に下植野にあり宗旨真言ありて本尊の千手觀音

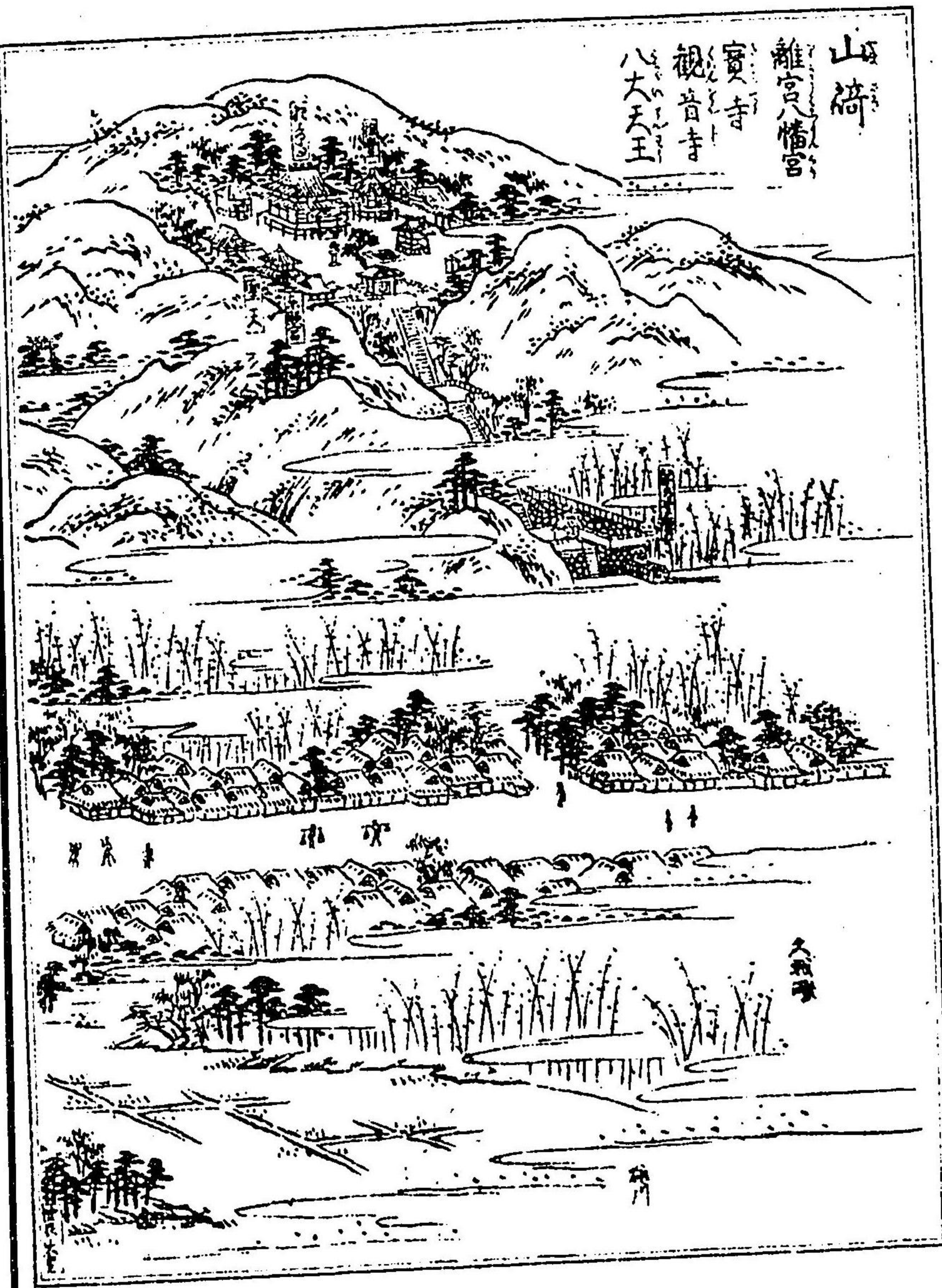
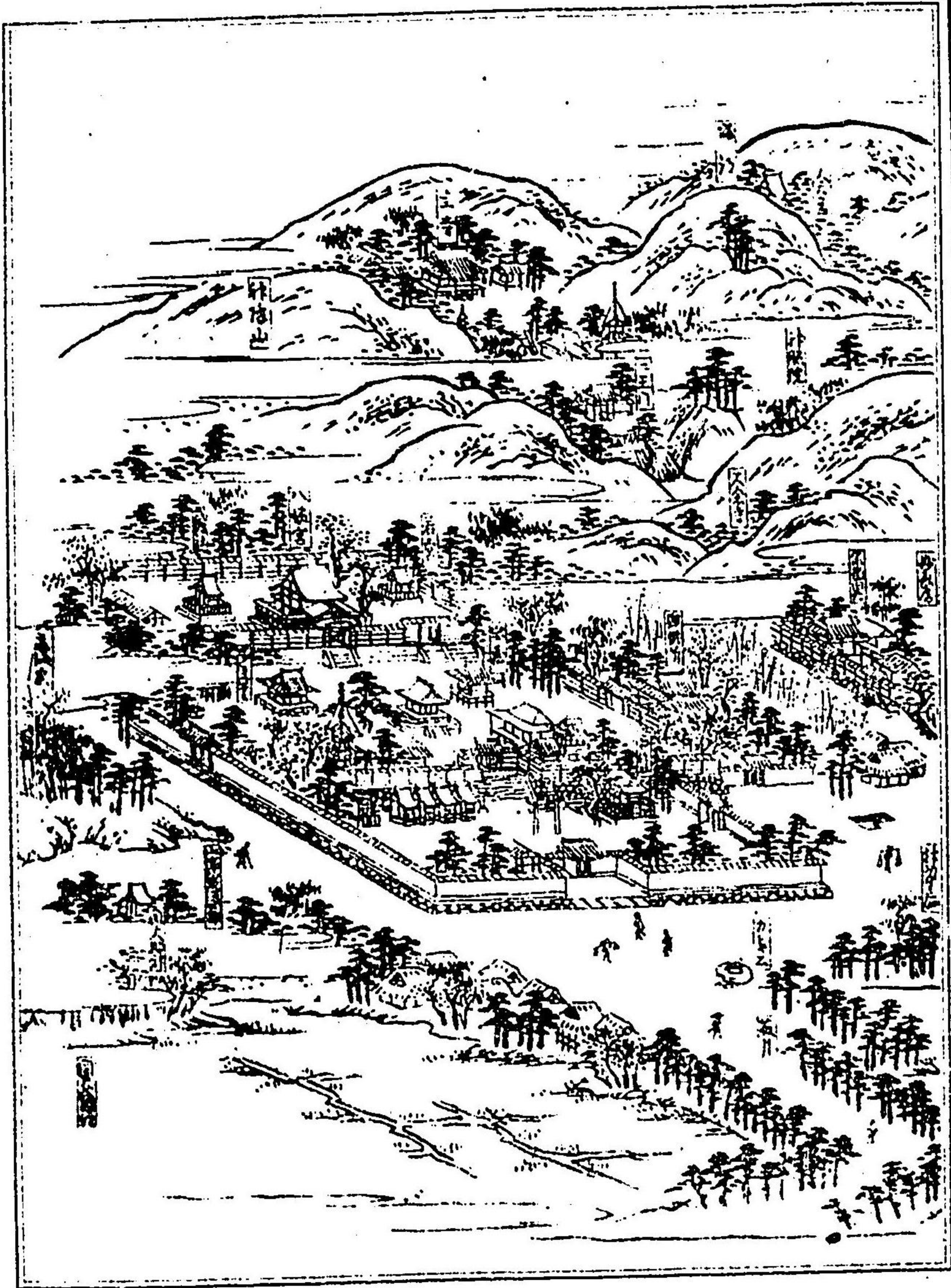
脇士に不動明王弘法大師の地蔵菩薩の傳教大師の化あり

平家時代の刑やんし平辨實泰撰丹波少將成常結にけりて歸海印

寺に本尊當寺の本尊に祈るに遠く感應候きけりて其の宣旨は其の換

勝龍寺に城の北足の東小あり

島山右衛門佐義就とて榮信長記に白永保十一年九月廿九日岩成主税勝龍寺の城に据あり



山崎
谷に観音



大山崎天王の社、素盞鳥の御子八王子と鎮座し、その鳥居の額に
 野道風はまら山崎卿中はをゆ、例を四月八日ありて、
 當社秘請の年代詳く、神殿深の銘曰、養老二年再興と書け、今
 坊あり、天王山の城、文明二年山名是豐赤松一族上洛して、城を築く
 観音寺、天王山の東半、殿あり、真言宗ありて、佛殿の本尊、觀世音像
 立像、聖德太子の御祖師堂あり、弘法大師の像と安坐、及本食、以て正
 中興して、今の如く再建あり、
 寶壽寺、觀音寺の南あり、補陀洛山寶積寺あり、真言宗ありて、本尊の
 十一面觀音の立像ありて、聖武帝行基居士の御像、
 聖武帝の御塔、三重の塔あり、大日如来と安坐、及當寺の什尊あり、
 妙喜なる寶壽寺の麓あり、禪宗ありて、本尊十一面觀音あり、千利休
 け所ありて、二尊あり、圓を建、考吉の坊あり、後所ありて、茶の湯あり、
 山崎の橋、桓武帝即位二年、是を造り、中流あり、後の橋とて、絶てり、今
 舟ありて、瀬川の橋あり、舟ありて、今も南ありて、今も橋あり、

離宮ハ備宮ハ心爲住還の中山あり鳥井の類ハ行成卿の家ニ社殿ハ
 ハ備宮と出宗奉々として社壇の下ハ石清水涌出左石ノ正所ハ備宮ノ
 備宮ノ若宮のやゝる武内良ノ奉社の備宮後ノら成社備宮ノ
 備社ハ貞觀元年四月十五日行教和尚宇佐宮小清ノ八月九日歸洛
 一ノ備宮ノ時小村老出ノ和尚ノ對一去七月十五日夜小村神ノハ
 ぬ其時日輪のぬ一又橘樹の本陰ノり清水ノと出ノ異香薫ノ行教
 事ハ天聰小建一勅奉奉清水ノ神神ノ神殿ノ造宮一ノ事
 離宮ノ名ハ備社鎮座ノ事ノあり弘仁帝ノ侍時ノ時夜海一ノ事
 離宮ノ名ハ備宮室ノ事ノあり一ノ事ノ離宮ハ備社ノ稱
 天は宮の社腰ノけるハ地ノ事ノあり一ノ事ノ離宮ハ備社ノ稱
 君ノ事ノ事ハ備社ノ事ノあり一ノ事ノ離宮ハ備社ノ稱
 宗鑑法師の出居の地ハ天は宮の侍ノ事ノあり一ノ事ノ離宮ハ備社ノ稱
 國戸明神ハ山城縣津の國塚ノ事ノあり一ノ事ノ離宮ハ備社ノ稱
 町ノ名ノ事ノあり一ノ事ノ離宮ハ備社ノ稱

みやに名水園云

都名所圖會卷之五目錄

前朱雀

- | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|-------------|------|--------|-------|-------|--------|---------|
| 八幡疫神系 | 常盤地藏 | 阿弥陀堂 | 石清水 | 細橋 | 志水 | 大荒本森 | 城南社 | 美福門院墓 | 冠石 奉齋林 | 墨染樓 |
| 神宮寺 | 狐川渡 | 下高良社 | 上高良社 | 教向橋 | 正法寺 | 浮田森 | 秋の山 | 西行寺 | 鐘本町 | 城山 梅の名所 |
| 放生川 | 宿院 | 鳩峯 | 琴塔 | 龍奉坊旧跡 | 女吊花塚 | 淀川 | 竹田 | 西行樓 | 墨染 | 梅谷 梅の名所 |
| 餅飼地藏 | 疫神堂 | 八幡宮 | 景清塚 | 御祭孔家 放生舎 来由 | 淀姫社 | 水車 渡舟舎 | 北向不動院 | 安樂壽院 | 墨染寺 | 源家小の旧跡 |

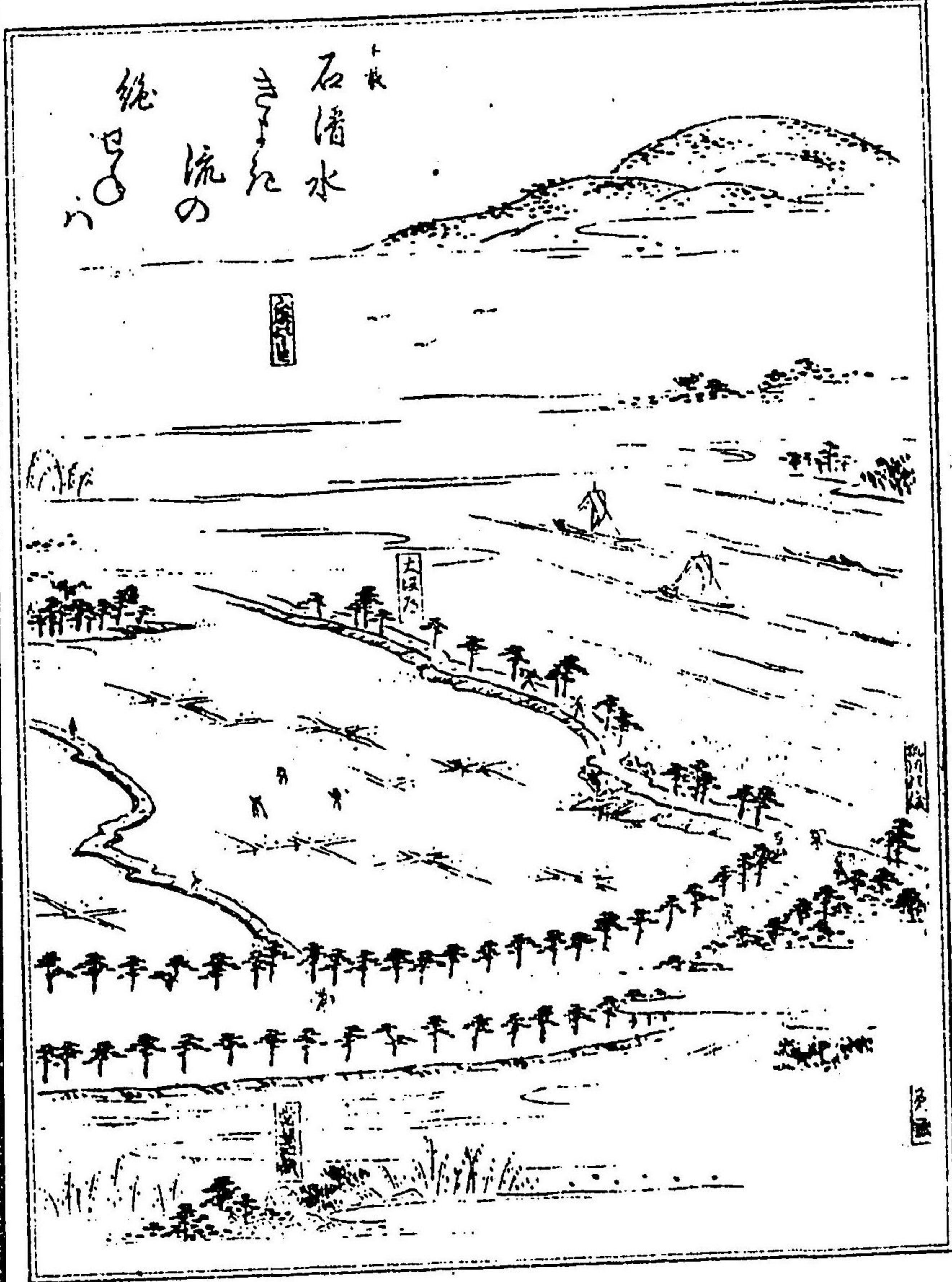
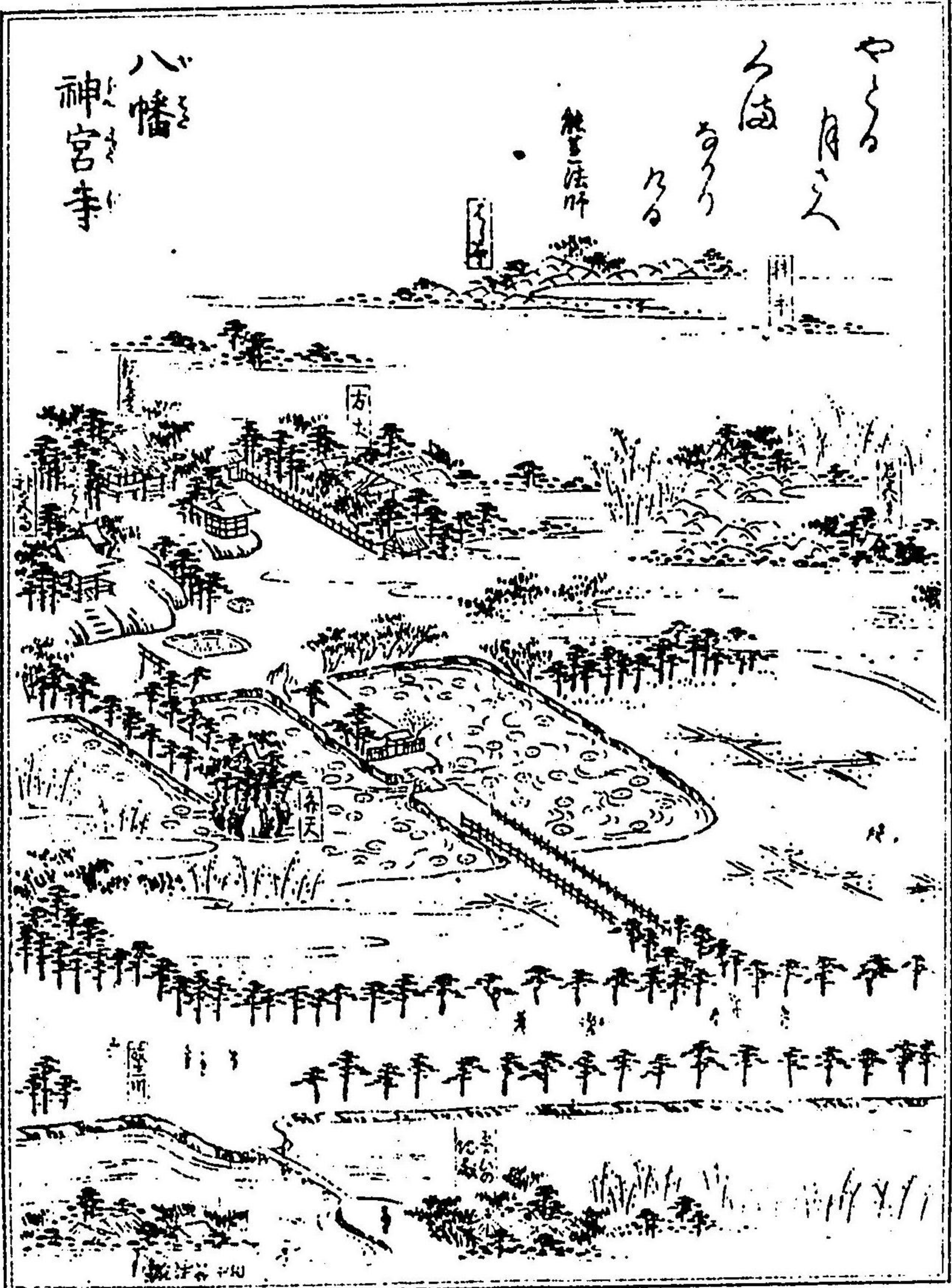
柳澤寺
 瑞光寺
 石峯寺
 栗栖小野
 少將通路
 一言寺
 長明方丈石
 京橋廻場
 括川橋
 三室戸寺
 茶橋圖
 宇治橋
 朝日山
 元政墓
 即成社院
 小野
 下醍醐
 笠取山
 石田
 豊後橋
 小幡
 宇治山
 宇治川
 通海茶屋
 惠心院
 藤森社
 昭宣公墳
 那須寺
 小町水
 上醍醐
 日野茶師堂
 佛國寺
 指月
 弥陀次郎回廊
 喜撰嶽
 山吹嶽
 橋寺
 眞聖寺
 走馬圖
 宝塔寺
 桓武帝陵
 栢の本
 醍醐水
 重衡塚
 御香宮
 六地藏
 若原山万福寺
 宇治十帖古蹟
 栢小幡橋
 離宮神
 琴坂

龜石
 栢の橋
 栢尾山
 鎧金松
 點汲圖
 磐峯山金胎寺
 兜社
 玉川
 蟹滿寺
 一休和尚回廊
 栢里
 加茂社
 山吹
 橋姫社
 平等院
 扇芝
 宇治田原
 百丈山智寺
 玉水
 井手里
 浦社
 天神社
 瓶原
 海修山寺
 清見河原
 中宿芝
 浮舟橋
 鳳凰堂
 駒麿松
 黄栗燒栗林
 久世鷲坂
 諸兄公回廊
 光明山
 北野神童寺
 綴喜郡
 栢社
 栢仁郡
 笠置寺
 堂將
 栢銅嶽
 鈿殿
 照社
 信西入道墓
 推尾山
 玉井寺
 高倉宮靈廟
 薪酬恩菴
 本津川
 國分寺
 流園
 後醍醐帝皇居

栗栖天満寺

やうきまの下の
ふら破魔弓を鐘
まとの武を返求
て土産とくは村功
空后三韓と退治
ありて御座陣
はとくの人遺
風あふと







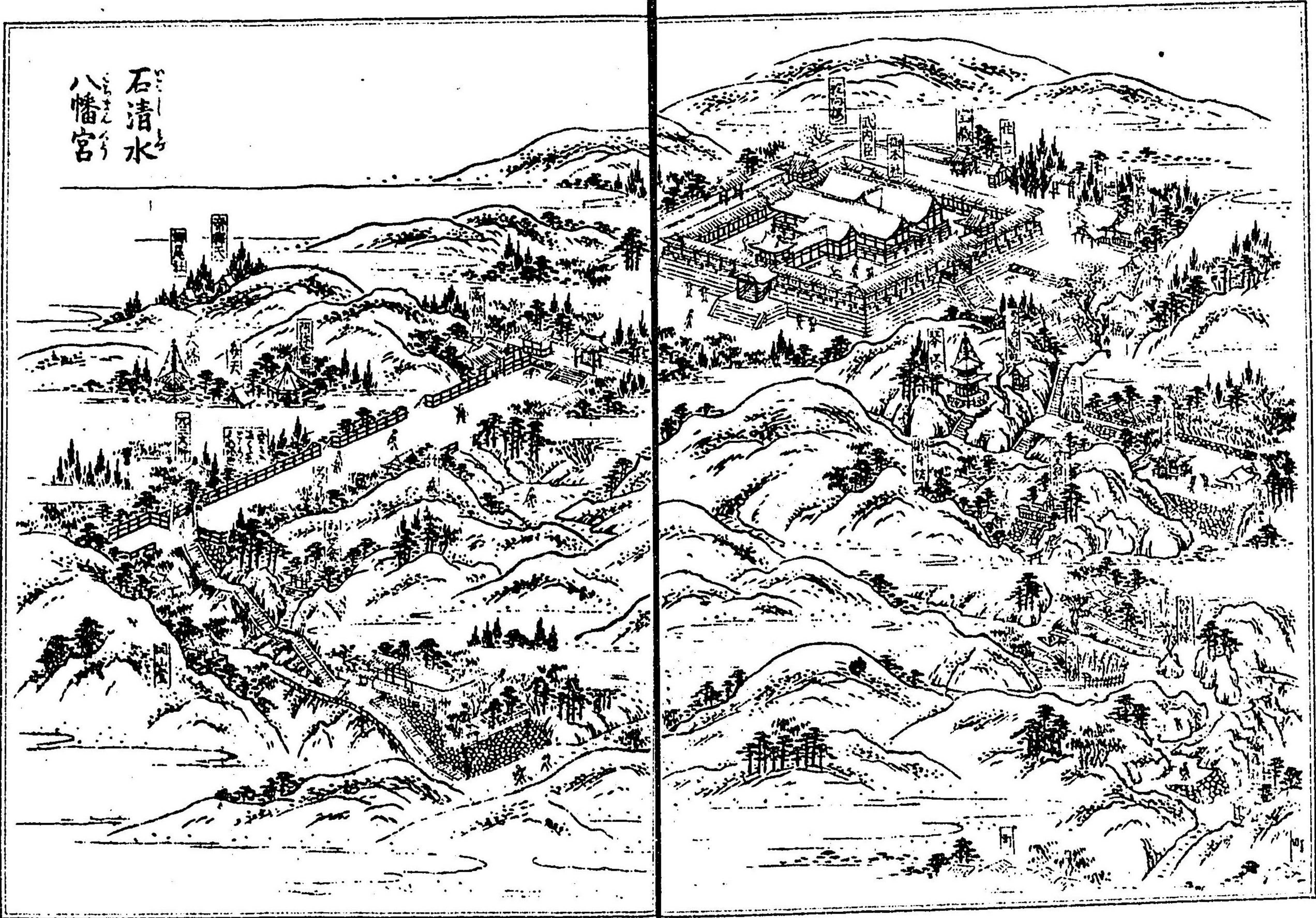
大々も
 さ
 今
 の
 松
 の
 え
 梅
 の
 園
 寺



八幡
 御
 旅
 所
 疫
 神
 社
 阿
 弥
 陀
 堂

新
 後
 撰
 や
 り
 こ
 の
 さ
 り
 の
 め
 の
 七

石清水
八幡宮



疫盡堂

一、新居の南廊下の隅ありは所八幡宮神祇所也疫神ハ正月十九日

正月十八日十九日二十日三日を當りて具年の疫神と稱し土を平らぐ

本地堂 聖主と安年たけ二尊の本殿の清正殿あり堂前の鐵燈臺あり

宮本坊 行教院と号し麻呂のの 龍本坊 石清水の傍ありあり

足立寺 本殿の西よりあり梅徳天皇方刺道鏡と帝徳の御ありあり

清九上格にては前代を奉りて道鏡と稱し清九の二の足立寺ありあり

社壇あり入道の小蛇あり清九の御ありあり

三善法寺

當山の社務ありて三善寺ありは新法寺五清水

放生會ハ例年八月十五日あり人皇四十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事ありて大隅日向の両方大逆亂と故に内裏より

宇佐八幡宮小幡祈禱ありて具宮に祈禱は豆本祈禱あり

ての此國征一と云ふ歌あり其後八幡の祈禱をよむは合致あり

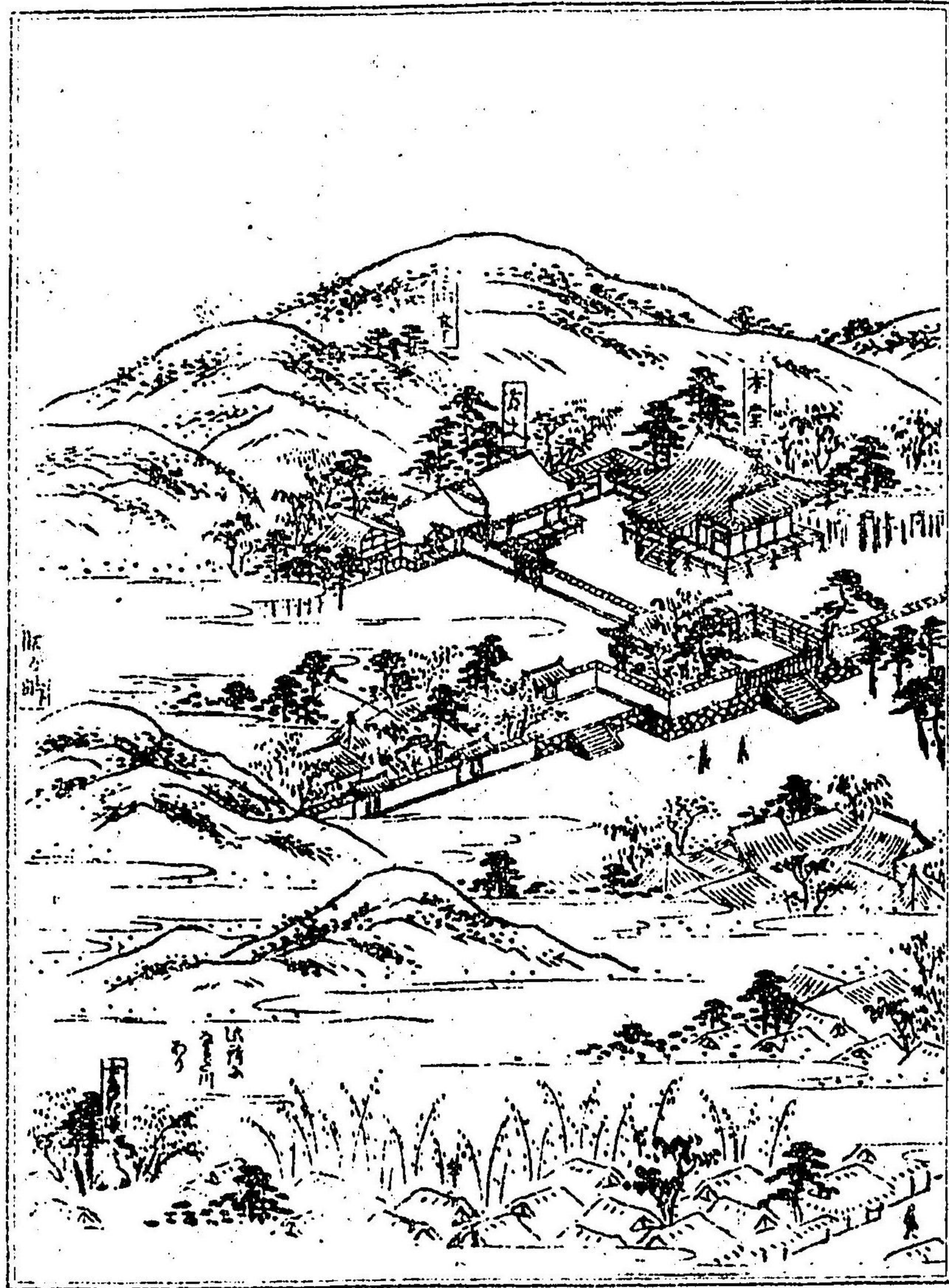
の殺せざるは同殺せざるはたけり神勅ありと云ふは

放生川 八月十六日放生供養ありて高橋あり安居橋あり

臨時祭ハ二月中旬日あり 大慶祭あり

鉾飼地蔵 放生川へ鉾飼ありて若宮八幡あり 常盤地蔵





志水正法寺



徳迦山正法寺の男山の南志水あり澤土家ありて洛東百方遍小属は

本尊阿弥陀佛を徳心の信より當寺にすしめ園藝上人の茶創りて
天台宗より中興聖譽上人澤土家と改む後宗は院清平天皇十六年

小當山の身十一世傳譽上人泰因して説法は殿多ふりしを宗は殿と

場人 徳迦ふとあり 其上勅授寺とある 尾州大納言保長直解の沖母なり

十郎に城 志水の浦入人皇入十一代平城天皇の清野神宮より復人

男山の藤みさあり系は女おはすふ連理の契結りたり一ふの女

はて人あゆむとて形をまらぬとて入あつたはさあたるの答ていはん

トゆるるま房かゆもは其所にありての女ももをてし胸せまり遊

に放生川の端ふら使のこのぬれた捨身を投て空しくあ其衣入りて

女郎た生さくるとあり形風けられた女ふまされ女郎たの眼を風

あり種風さひぬあわれと共身を投て死たり其所と後川より放生

川の上よりさひ漢の何文を女に塚女郎たのむも押りいひされ

古今の序小も男かおれむうとさひいそす所をた一時なつたりけり

女郎たさしははもゆたさる地もさひいそす所とさひいそす所と

衣取り 饑餓ふもあつた女郎た 班作。

如法經塚 男山の西に極武帝王塚後遺りして 志水の南天神森あり

河水橋 四方に經王を樹りけり所と南岩瀬あり あり女のぬれ月を

洞ヶ峠 ハスとのあは里ふありと城 高野街道 志水の南より日田村より道

玉塚 志水の南より内里村のふあり 岩田 ヤリとのあり一里遊ふあり

合のち山品の石田と堀りハ醜脚の南より又喜喜式久世郡石田の林社あり

詞花 志水の南より宗被の指の西にけり村と用らるるすよりて其所と

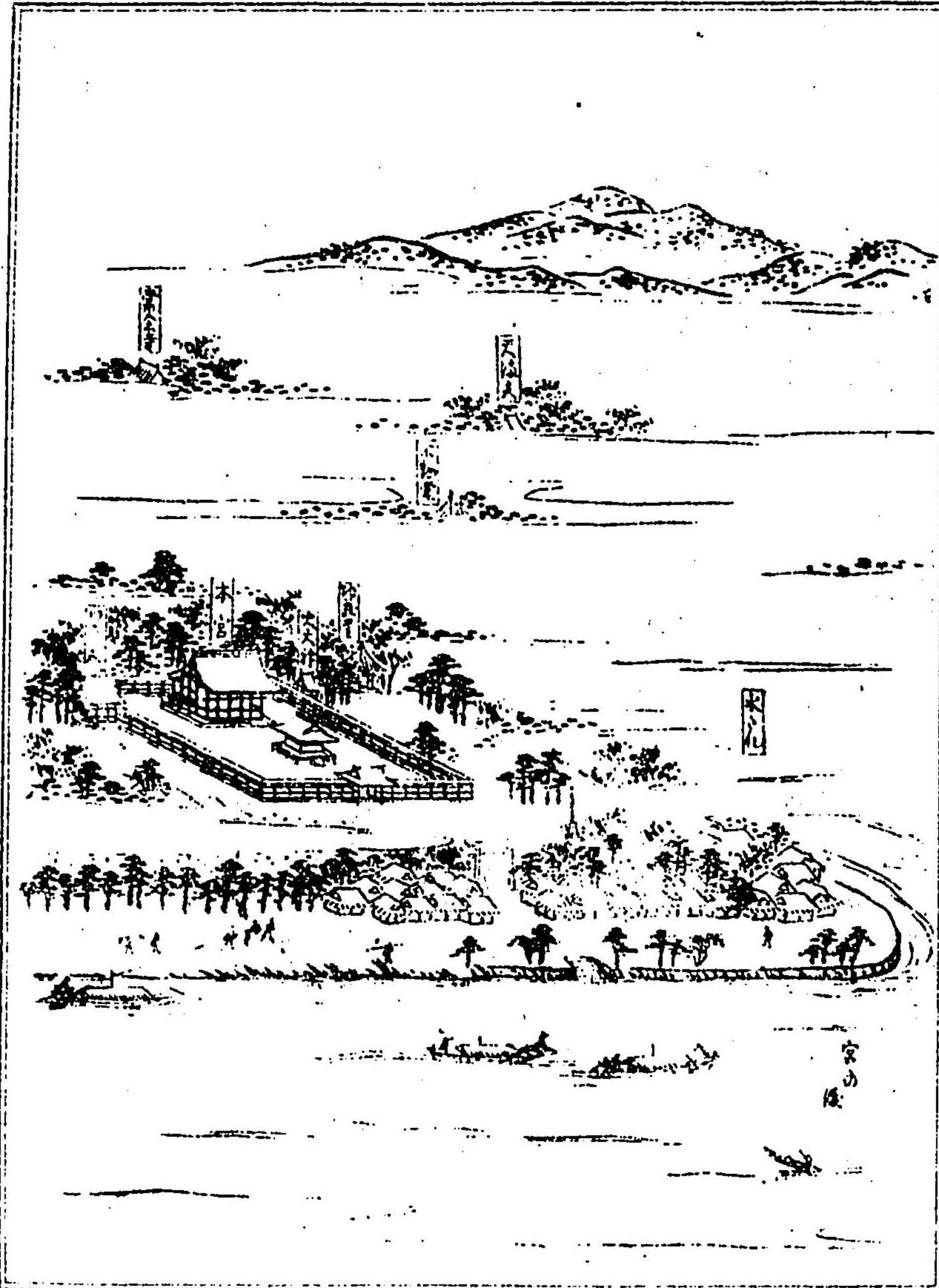
つるつるの石田の杜のいそすをのうらねて七月のけ 藤永為

美豆 淡大格の南瓜の里より又飯樹ありてあり又豆の清ねと鹿あり

入は森野ありとあり 又月雨もこののみさけはさきかやん

桐さくさの上野川茶のきののゆを且さたりけり 順徳院

淀姫社
浮田森



淀川を五峯内第一の大河なりとて國に水はるに陽念に 山城 津和野 河内

河水まはるの流はるるも川のいさづきも難は津のゆきり舟を夜と

とれたるも舟も舟も城郭の江も水車ありと波も極に翻々と

めがは領主の茶亭橋上のゆきも茶亭遠々くもさるるも

ゆきもゆきも は所を標の名を承りて其味あり高貴の献上あり

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

北三日神樂一基あり 宮の傍に當社の名居前より桂川に合ふ小橋

天神口 船はまきりては神宮の社あり

大荒木社 大荒木の社にあり

伊勢向宮 伊勢の宮にあり

浮田本林 浮田の本林にあり

あまのり あまのりの宮にあり

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

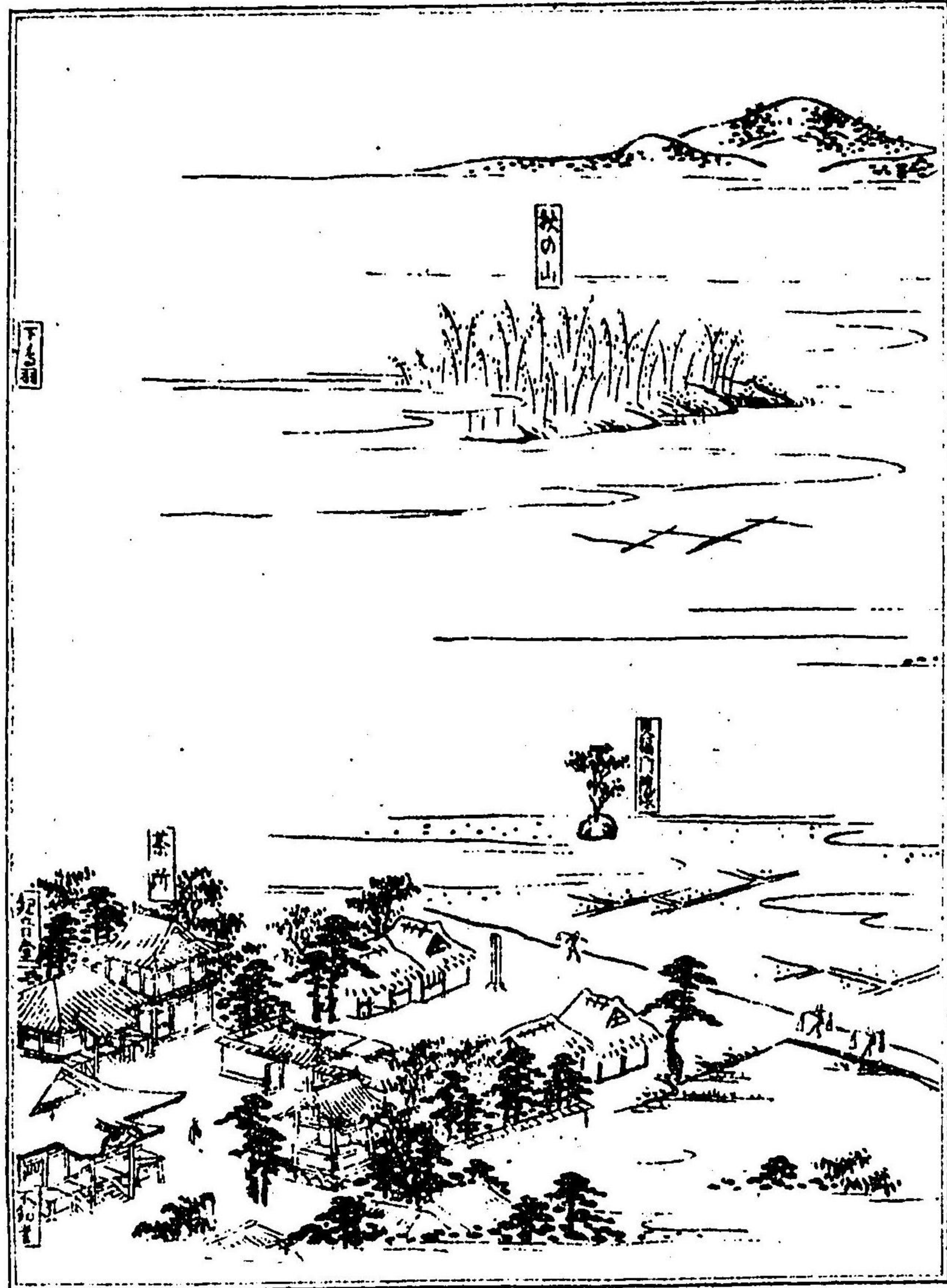
ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

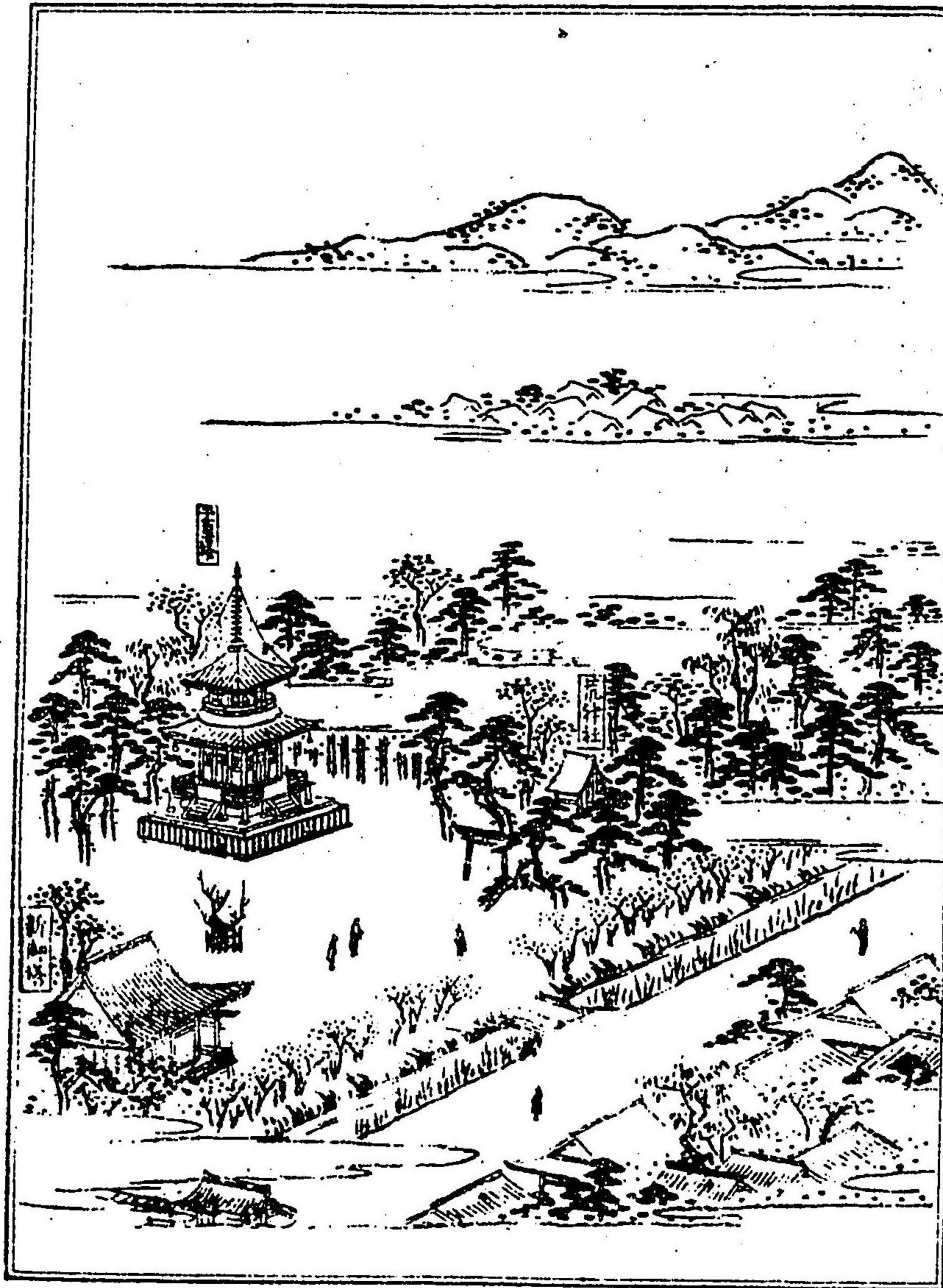
ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

ゆきもゆきも ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも





安樂壽院(竹田里)不動院の小より鳥羽上皇脱躰の後城下の離宮

はしく心殿をめぐりて當院といへるも保延三年十月十九日覺行

法親王を導師として慶一のみ

本御塔 五重の塔はゆいふふふふなり 本尊は卍字阿彌陀佛と銘 傳傳乃

三昧土佛 釋迦牟尼佛の三昧あり 五輪塔 無銘あり上皇如法徑

具答盤梅 上皇城南の宮中において圓基を築いては樹下より

冠石 平所堂新所堂の回りの石の形

新御塔 南の方の本堂をとりて本尊は地藏菩薩ありて定朝の依り

鳥羽院覆美福門院 鳥羽院の女御の條女院に銘 美福門院の

三教の新興の二重塔 阿彌陀佛を安置する所の塔の形ありて

鎮守 荒れと

鐘本町の竹田に巽五町あり秀吉公伏見所を城の付後を掃部前所あり

とのふとの小慶長九年十二月小傾城町免許あり所あり

墨漆を鐘本町の小三町よりありむつへは所より漆茶といひて野

又の橋多一寛平二年堰川右政大臣昭宣公堯一の付上野太雄表

傷のおを泳ぎたけむりけ橋墨漆を嘆いとあり

漆茶のむさしの橋をありむつへは漆茶といひて

菅公に神泳み梅とあり小飛趙師雄のむさし一尺人の夜まの枕より

嵩山の松を青牛と化し康頼入道の寶物某よのまかすといひても

物のありけぬれぬれはむさしの漆茶を嘆今も漆茶は墨漆橋といひ

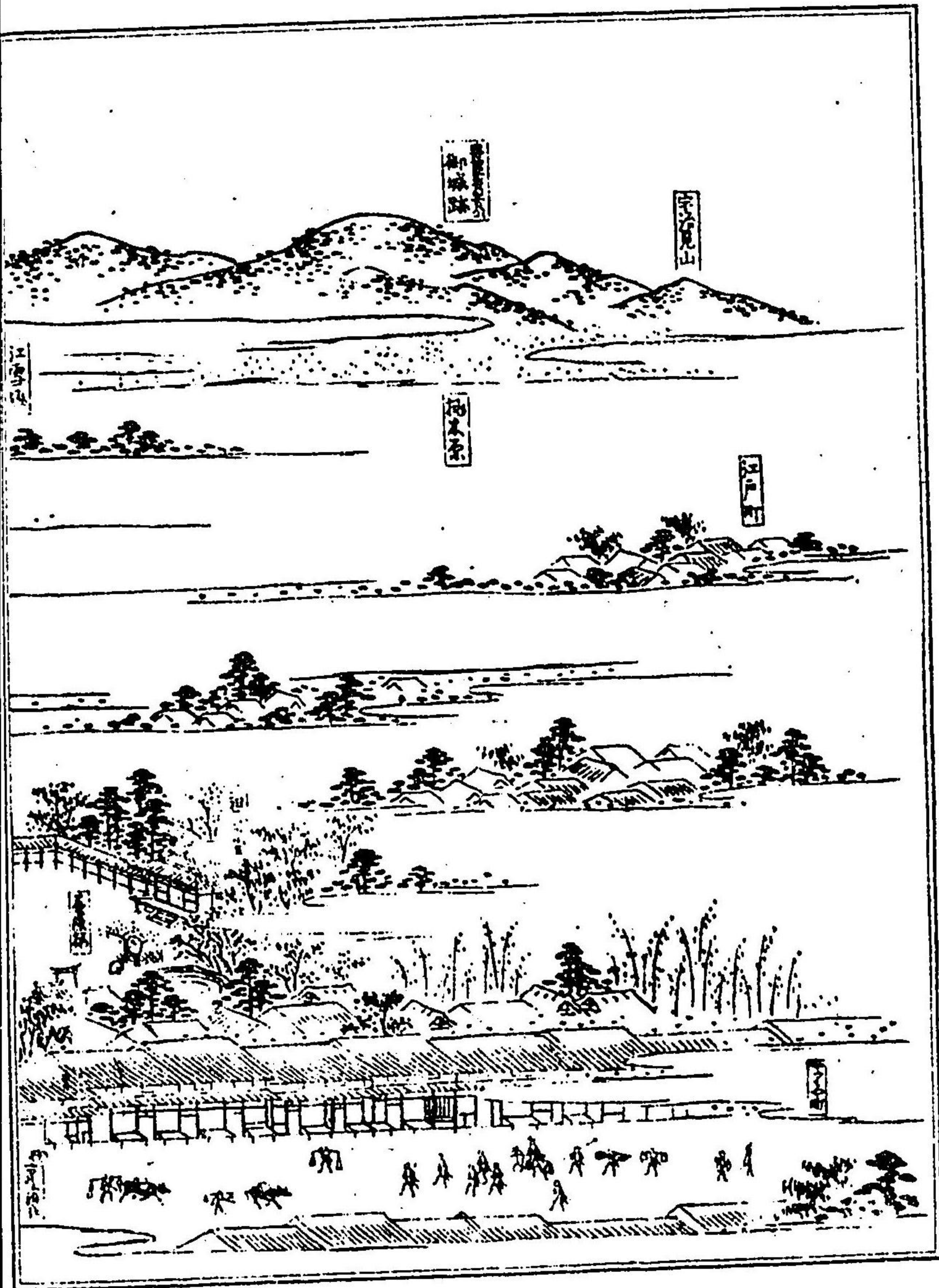
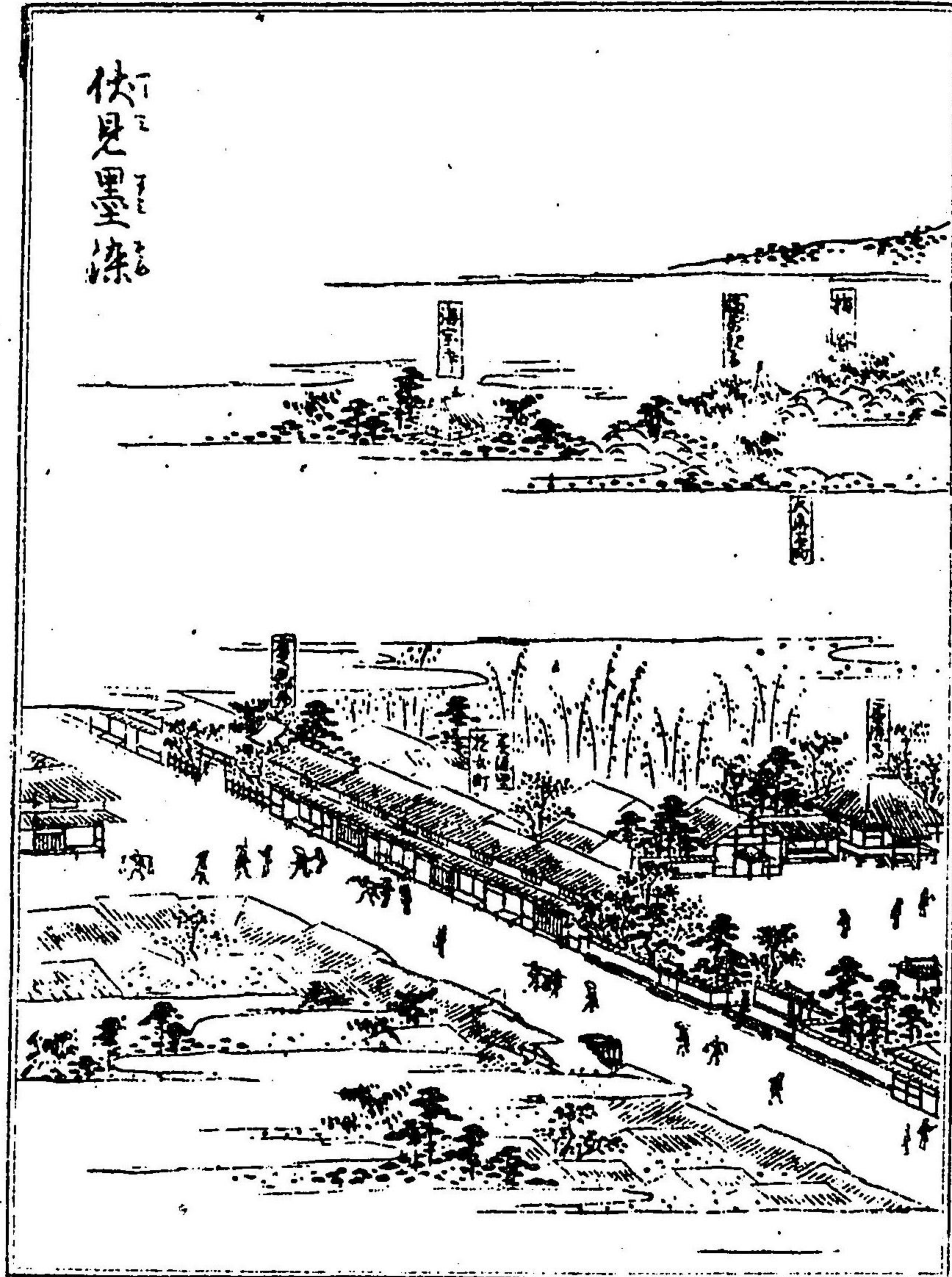
ものれはむさしの漆茶を嘆今も漆茶は墨漆橋といひ

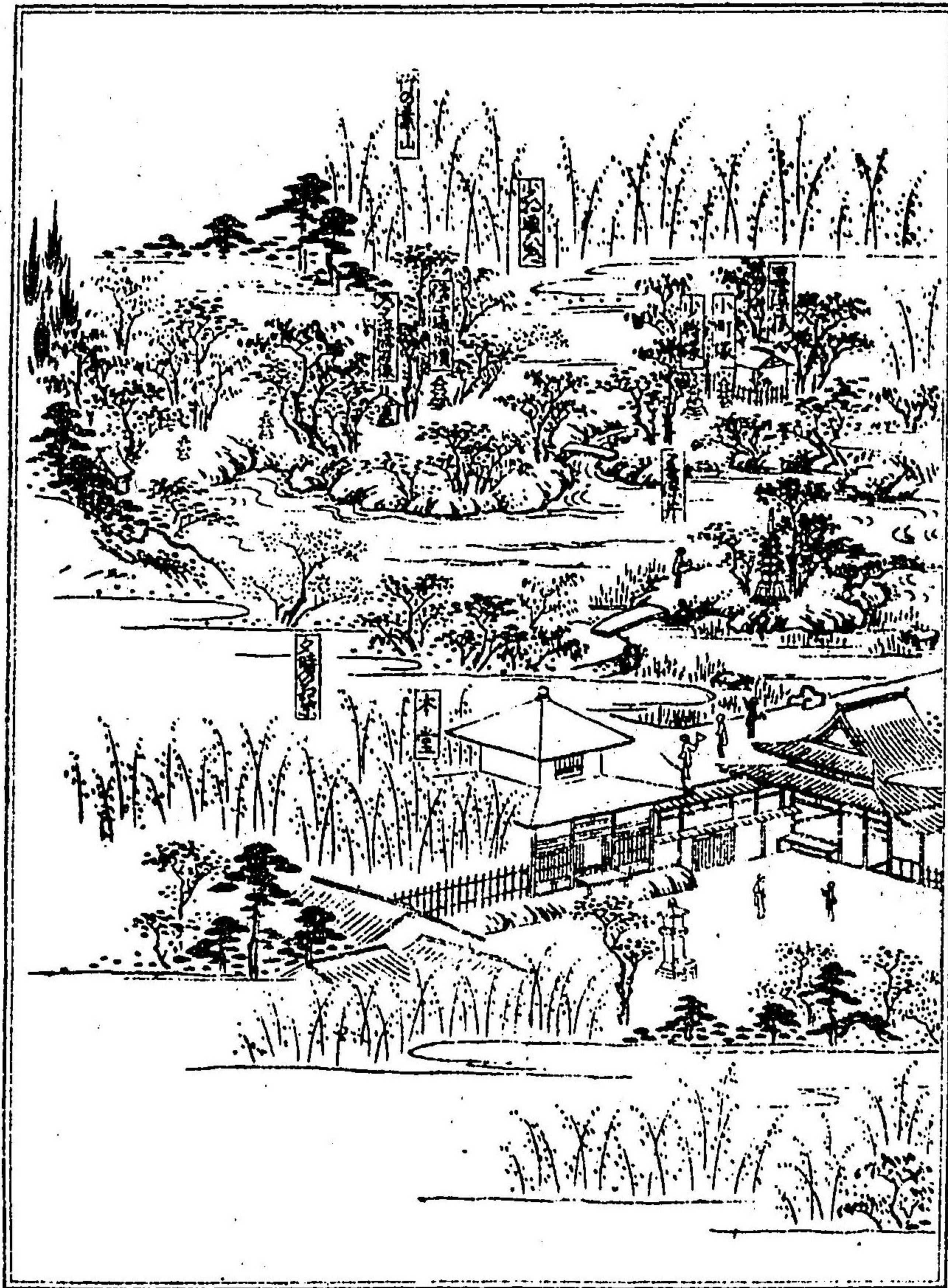
墨漆寺は日所南側より貞觀帝 天和 隆延のより小寶祿祈のより大相繼

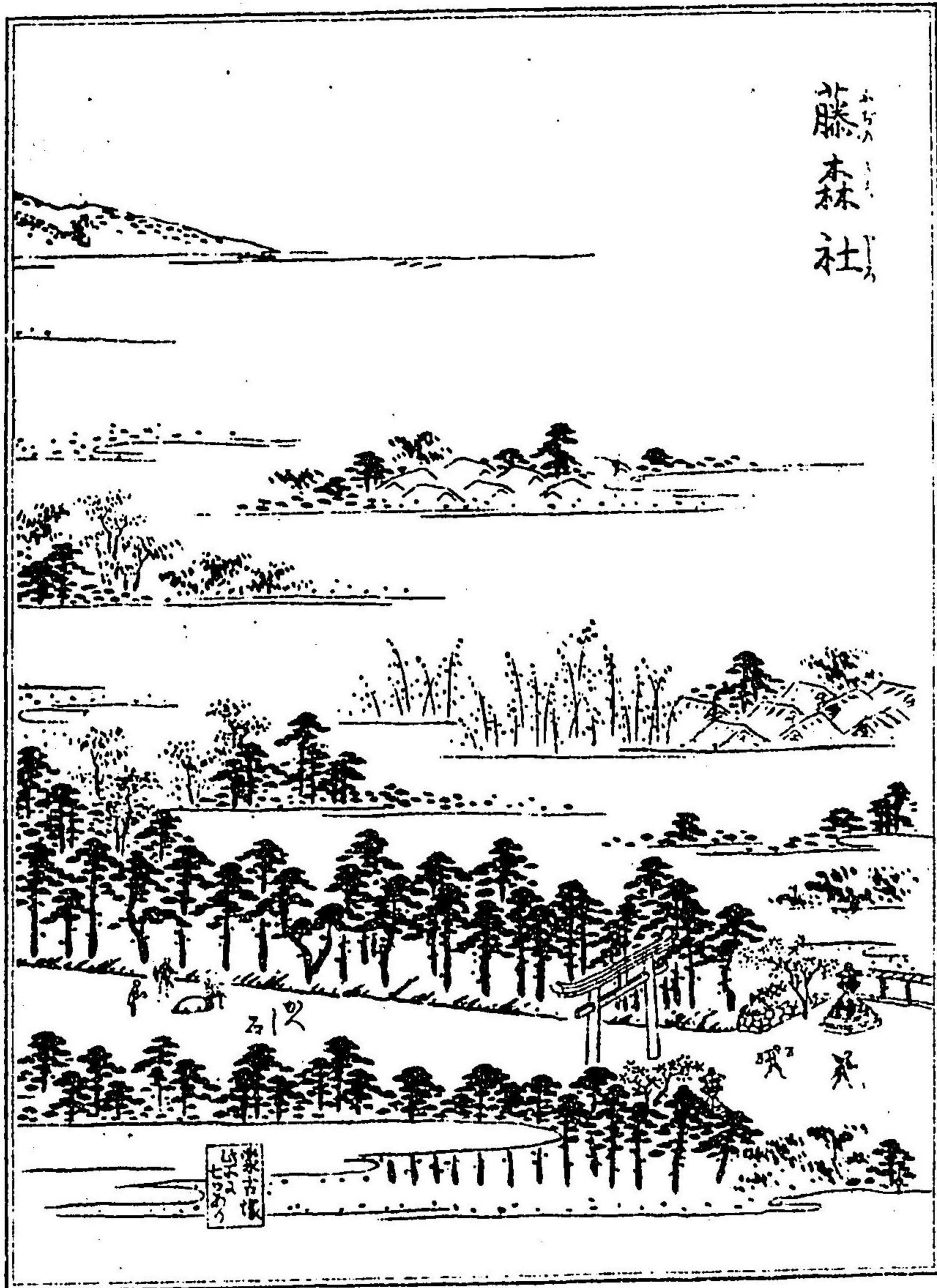
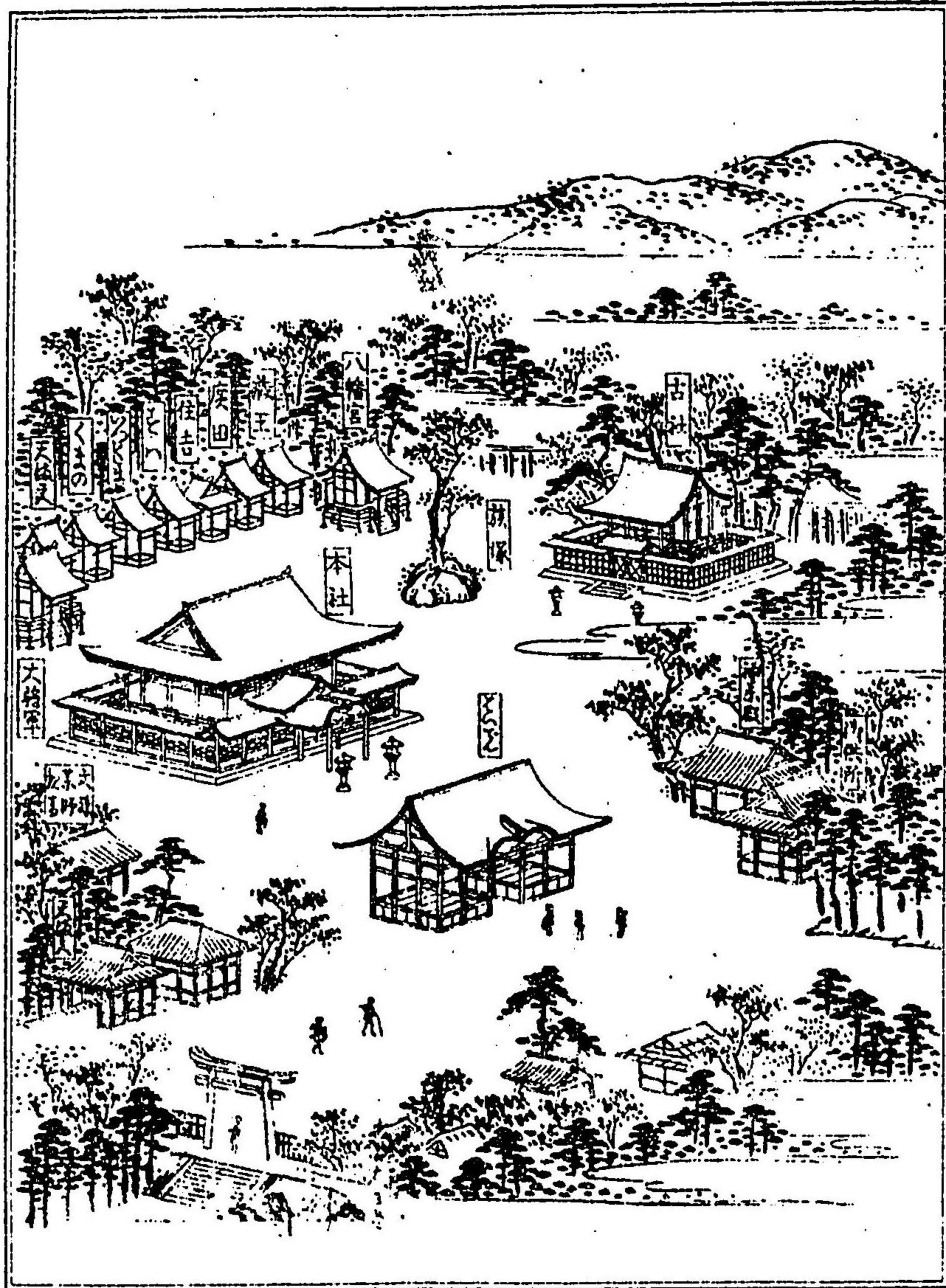
忠仁公に建ぬいし貞觀寺の旧地を今は法善宗よりて日秀上人開基は

慶長のより方丈書院魏よりて秀吉公も御成ありし所あり

墨漆橋 堂の前よりあり件のあり 墨漆井 昔寺の門前町の南東







藤原氏の系、五月八日、
 五月八日、
 神代古遺跡、
 一、
 音宮、
 鈴、
 志の、
 走り野あり



女、
 武、
 志、
 走り野あり

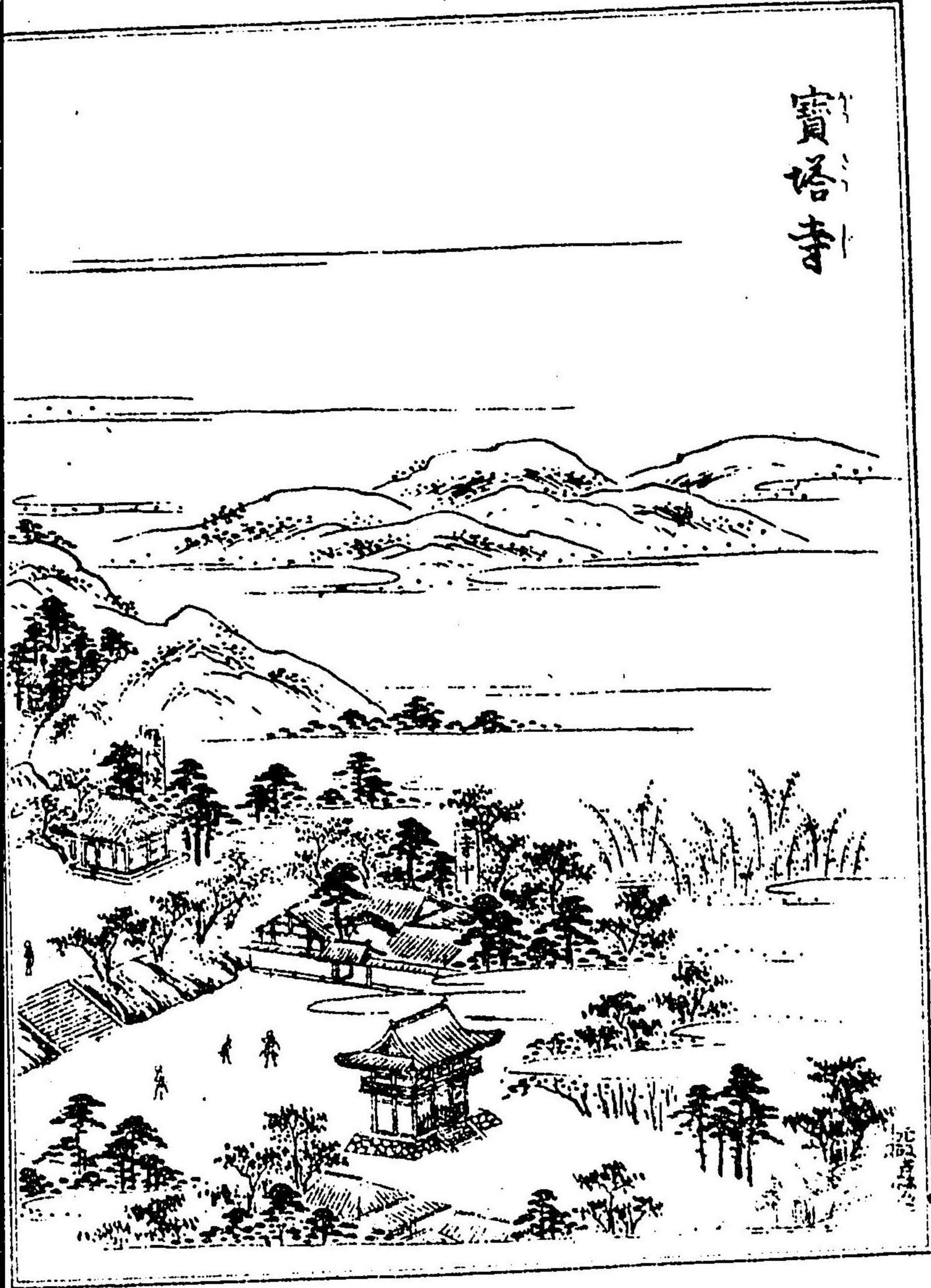
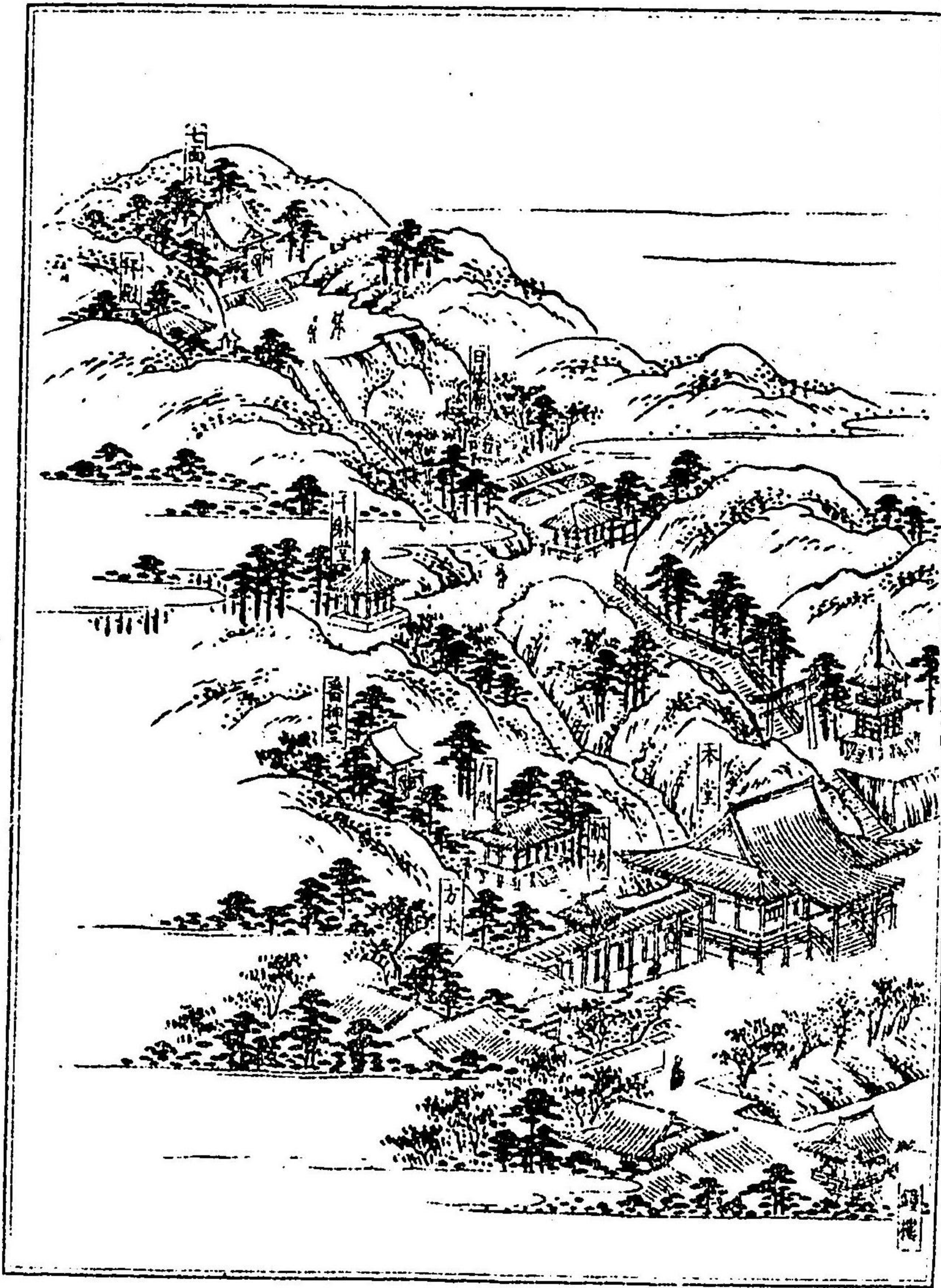




瑞光寺
元政法師
舊跡

あしきたる

瑞光寺の法草極楽寺村あり佛殿の本尊は釋迦佛五層六臂あり明曆
元年小元政上人草創ありは妙道場とて當寺境内の法草極楽寺とて
元政墓佛殿の西より塚あり人作の墓あり之は法師
道の記に故田舎にて常の佛にありぬべし
たの殿の門日蓮宗ありと常の佛にありぬべし
酒れぬの釋迦ふ涼しや杖の意鬼貫
昭宣公の墳は瑞光寺の門前ありて塚ありて巡十間餘之上小社あり三十番并
を輝まのつゝなははもくさありて草むらね信都勝延
極楽寺の向ひの寶篋山瑞光寺は極楽城大鏡に白河を奪取す所のありし時
保胤が極楽寺の賊と東山の勝地と東外の境壘中の天守と聖智羅とあり
翠嶺の湧く如く谷水の玉虹の流るる如く其勢十分の如くあり
如く飛泉の細くも其勢遠は山圍むとあり今に至る寺七面の



寶塔寺

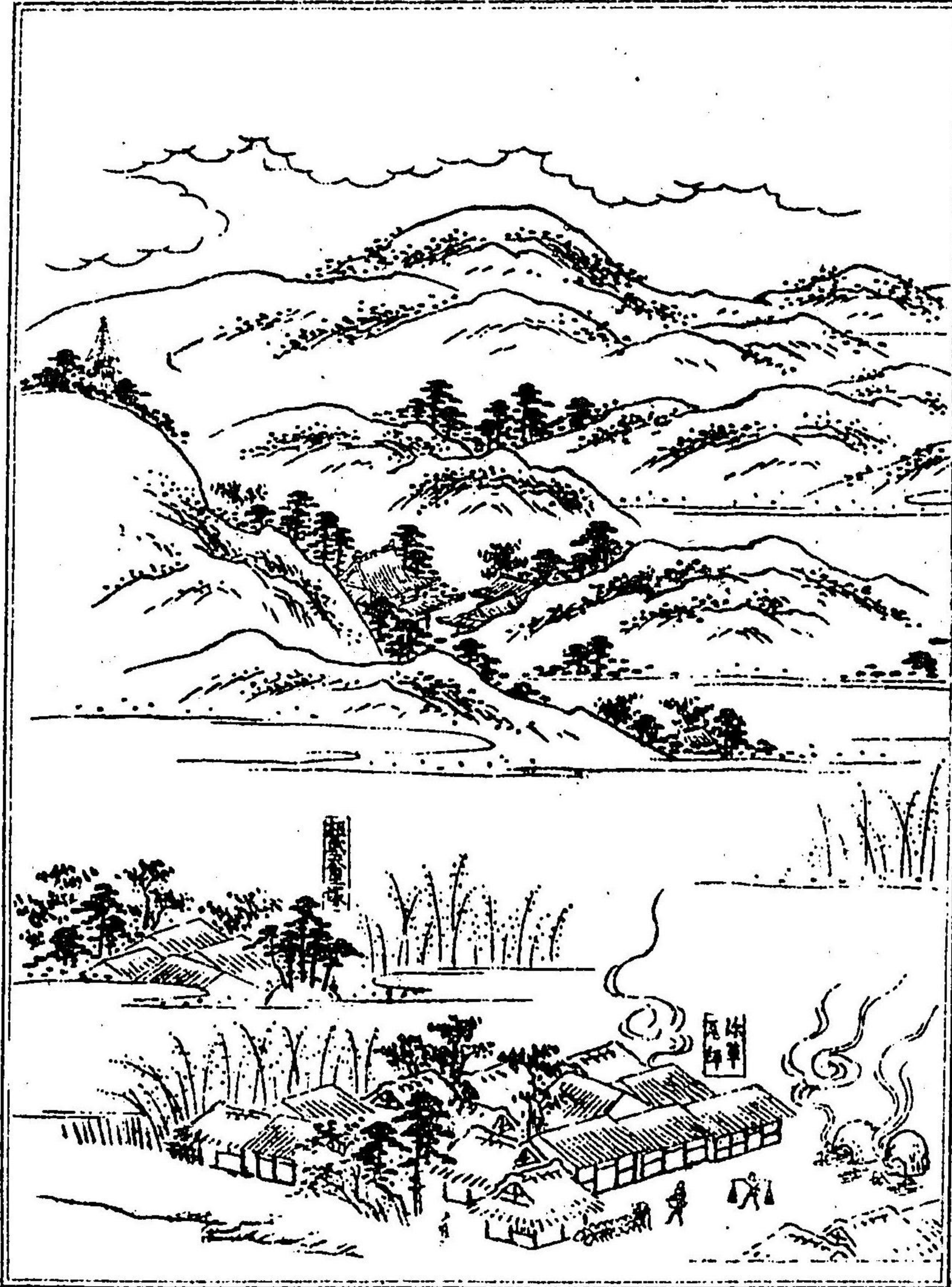
百丈山石峰寺



深草山寶塔寺の瑞光寺の北よりは、（一）本堂の釋迦多宝の二尊高祖
 日蓮上人の像と安んじた願塔の日蓮上人の御題目の石塔婆ありて、（二）下より
 日蓮日朗の遺骨を収むる樹に、（三）日蓮の説法石の釋迦千躰堂の御あり鎮
 守れたまひて十番社とあり、（四）西明神社と本堂の後とあり、（五）足鏡宗權護持を
（六）延慶年中に住職良桂律師日蓮上人の教に法を授けたる法義道場と改む
 百丈山石峰禪寺の宝塔寺の山は、（七）同山の麓の世千呆和尚（八）退院の地は
 佛殿の釋迦佛額の濟世法王又た石の聯あり共千呆の筆と表門の額を
 即非の筆ありて高着眼と書けり
 薬師堂の佛殿の前ありて本尊薬師佛長閑惠心僧都れたりて多田
 備仲公の念持佛に村上帝清宇夫徳二平小攝州多田卿の地力を満仲公
 伽藍造営ありて妙羅連山石峰寺と號し、（九）本尊の安んじた其後之水
 の流ありてに諸堂回縁なるに、（十）おほいなる像ありて石の堅くありて中より、（十一）

觀音聖母と慶長元年の春沙羅の夜あり賜令に依り其老の本
と第一の石の石塔傳り蓋の羅連山石塔寺末師依の銘あり則一宇
堂で安んじたりは卷主宗玄といふその小室中の靈書あり排近の所
未の遷一安んじたり普人民と化益せんと宣宗玄佛意は自ら春ふるを
ふやりの五条にのり因幡堂小暫安奉一程多く五條の橋本若宮八幡の
堂舎をとりたる石峯寺といふに室水は清黄藤千宗和尚常といふに
藥師堂小尊信のりて自我異國より日本へ渡り其師の祖席司職と
事偏に靈佛の應現ありと厚く瞻禮奉敬せられたる也 公命あり
今れ如く百丈山といふたは尊像ありといふ峰寺といふ號し
茶碗子 諸般の能く當寺の門前南のくにあり
即成就院と源草れあり大龜谷小ありをる阿弥陀佛の坐像之脇壇に二十
五菩薩といふ惠心の依り靈像の惠心僧都歎櫻川といふ説法一の師
を人の老翁たりたり排に南伏見里小信といふ一齊と捧ん奉安をく惠心

謂ふ應として伏見小を指月のがらうれ妙なる心の翁といふ佛回小清極樂淨
土の寶時ありと捧一僧都奇異の思ひなり老翁の何れを今といふを我
佛立世あり唯摩居士の化現之師の法法感してより小なる惠心を依りて
拜一其正眞の如未依拜せざる依復小翁則西上空向て敬禮一をれ也
終として紫をぬびたる樂と共に本土阿弥陀佛二十五菩薩立小をれ
のいづれを老翁諸も西に飛去る信都感信の餘り則本達の相成自刻で
當寺の本をるといふ又毒水の源奈須與一宗高平家追討のくも出陣の時
當院に詣り祈誓して曰今度戰場ふたりと響依海といふの當院といふと
なりと則佛前の幡をたてて西海小の極の海を扇の射つるを
天下に落し奉るの擁護するといふ堂舎依修造一願を成然の奇特依
世小知といふんとて即依就院といふわけなり
那須與一宗高石塔 堂のありあり高きま大計りして
軒端梅 塔のありあり高きま大計りして
由未詳なり



即成就院
那須與市宗高塔

大亀谷の藤の森より勸修寺迄は小野街道といふは所小茶店

ありて谷を盡したるありて名を亀と稱し自れと所の名を呼んで大亀谷といふ

吉和俱八幡宮の勸修寺村の彦沙神彦沙神は九月廿一日當社の社本に種まかれしなり

勸修寺の大亀谷の良の方は所の名を勸修寺村 當寺は小野の華嚴小野といふ

兼てり本尊の聖喜帝御等身の觀世音長う入 用基を乾後僧正延喜

四年の建立ありて本願の石を定方取り東大寺の寺務ありて勸修寺

御門跡と稱す氷室池當寺の池中 勸修寺より河より山科郡西の山若屋明神れ馬場先北側葎の中あり

大石屋補勸修寺より河より山科郡西の山若屋明神れ馬場先北側葎の中あり 大石内藏人良雄後醍醐天皇御代に御居り近半碑の銘を遺す

栗栖小野の勸修寺より北花山のふもとにこの村あり

田村磨墓栗栖野醍醐道のかし林の中心あり今は所を馬脊坂といふ 二年五月廿二日薨て年八十四

大宅寺勸修寺の北大宅村の南小あり古は所を大機院鎌足公の居館あり今を曹洞宗 月夜和尚一宇が遺して大宅寺と號しは里と大宅とをりくまの因院大長

冬廟の神は高祖殿社のもと小野村のふもとに山神のありやの國とはいふは

多しぬきなる雨降はるり雷をいれんを今言はば小野村のありしなり
勸修寺の北大宅村の南小あり古は所を大機院鎌足公の居館あり今を曹洞宗
月夜和尚一宇が遺して大宅寺と號しは里と大宅とをりくまの因院大長
冬廟の神は高祖殿社のもと小野村のふもとに山神のありやの國とはいふは
風雨降りて雷ありたりと供人も多しなりは若し馬知も人供してこの門のふもと

興福寺の旧迹大宅村のやうなりあり旧屋敷と傳ふなり 松教岩屋の社南の麓に

小野隨心院勸修寺の東と曼荼羅寺より真言宗より同基を仁海

僧正之法務の小野御門跡秘傳家持連の職あり 同基仁海小野

二年六月大早に僧正小野神泉苑より清雨徑の法を傳へしは僧正

二年三月夜其後九度認めありて皆面なる世人雨僧正と申す永承元年五月十日

己上元亨撰書小野村の南の葎の中ありけしは出羽郡司小野長實の遺書ありて

栢の樹厨のありあり餘茶少おけけ

深州少將の通醍醐往還の西側葎の中あり墨原の南彼寺あり小野の

櫻塚小野村の西にありは小野の文塚 野色山道の西に 貞塚四位少將の夜敷あり